

男女共同参画と多様な性についての 市民アンケート調査

— 調査結果報告書 —

■ 市民対象調査 ■

(未定稿)



令和4年3月
横須賀市

目 次

はじめに	1
I 調査の実施方法等	3
II 調査結果の表示について	3
III 調査結果の概要	4
IV 集計結果	8
回答者の属性	8
1 男女共同参画（社会）に関する考え方について	10
(問1) 男女共同参画等の言葉の認知度	
(問2) 各場面（学校、就職、家庭、地域など）における男女共同参画の進捗状況	
(問3) 男女共同参画が進んでいると思うか	
(問4) 男女共同参画の阻害要因	
2 生活の中での男女共同参画について	15
(問5) 「男は仕事、女は家庭」等という考え方	
(問6) 家事や子育て、介護の担い手（現状と理想）	
(問7) 育児や教育に関する考え方	
(問8) 介護・看護を受けるとしたら、誰に世話をしてほしいか	
3 女性の活躍推進について	25
(問9) 女性の働き方（現状と理想）	
(問10) 女性が長く働き続けるために必要なこと	
(問11) 政治、経済、地域社会における女性割合向上の取組み	
4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	30
(問12) ワーク・ライフ・バランスを進めるために必要な取組み	
(問13) 育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇の取得状況	

5	男性の育児や介護の参画について……………	32
	(問14) 男性が育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇を取得することについての考え	
	(問15) 男性の育児休業や介護休業の取得率が少ない理由	
	(問16) 男性が家事、育児、介護、地域活動などに積極的に参加するために必要な取り組み	
6	性別に基づく人権侵害（DV、セクハラなど）について……………	35
	(問17) 人権が侵害されていると感じる場合	
	(問18) セクハラ被害の経験（本人または家族や友人の被害）	
	(問19) セクハラをなくすために必要な取り組み	
	(問20) 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力は、一般社会における暴力と同様と 思うか	
	(問21) DVに関する相談機関の認知度	
	(問22) DVに対する対策や支援で、重要だと思う取り組みについて	
7	性的マイノリティについて……………	41
	(問23) 性的マイノリティ等の言葉の認知度	
	(問24) 性別で悩んだ経験の有無	
	(問25) 性的マイノリティの方々にとって、生活しづらい社会かどうかの考え	
	(問26) 性的マイノリティの方々も生活しやすくなるための取り組み	
	(問27) 身の回りに性的マイノリティの方はいるか	
	(問28) 身の回りに性的マイノリティの方がいたらどう思うか	
8	男女共同参画推進のために必要な取り組みについて……………	45
	(問29) 男女共同参画社会をつくるために最も必要だと思うこと	
	(問30) 男女共同参画社会を実現していくためにできること（P. 51）	
9	新型コロナウイルス禍における影響について……………	49
	(問31) 新型コロナウイルスの影響による変化	
10	自由意見……………	54
■	調査用紙……………	57

はじめに

横須賀市では、誰もが性別に関わらず個人として尊重され、あらゆる分野における活動に男女が協力し、互いに個性と能力を発揮し、その利益を享受できる社会を実現することを目的とし、平成13年（2001年）12月に横須賀市男女共同参画推進条例（以下「条例」という。）を制定しました。

さらに、この条例に基づき、男女共同参画の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、横須賀市男女共同参画プランを策定し、さまざまな取り組みを行ってきているところです。

現在は、平成30年度から令和4年度（新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度から1年期間延長されました）を計画期間とする「第5次横須賀市男女共同参画プラン」（以下「第5次プラン」という。）の実施期間中で、政策・方針決定過程への女性の参画促進やワーク・ライフ・バランスの推進、男女共同参画社会の形成を阻害する重大な課題でもあるDV等を根絶する環境づくりなどに、3つの取り組みの方向性を掲げ、7の施策方針のもと、65の事業により推進しています。

市民アンケートを実施した目的の1点目は、現行の第5次男女共同参画プランの達成状況を測ることです。本プランには12の施策方針ごとに設けた目標値がありますが、その内の7つが市民アンケートの数値を使用します。

目的の2点目は、令和5年度から始まる次期プランの基礎資料とすることです。これは、本市の男女共同参画に関する現状や市民の意識とニーズを把握すると同時に、次期プラン策定にあたり第5次プランでも重点の1つとなっている明確な目標設定と進行管理に使用するためです。

市民アンケートの結果は、第5次プラン策定時に実施した前回調査（平成28年度）後の市民の意識変化等を検証し、また、新たな課題について考え、施策等の見直しをする上で、大変貴重な資料となります。

本調査の実施にあたりまして、ご協力をいただきました皆様に心からお礼を申し上げますとともに、男女共同参画推進への一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和4年（2022年）3月

横須賀市市民部人権・男女共同参画課

重点目標と施策方針一覧

重点目標Ⅰ 誰もが活躍できる環境づくり

施策方針（１）政策・方針決定過程への女性の参画促進

（２）女性の活躍推進

（３）ワーク・ライフ・バランスの推進

重点目標Ⅱ あらゆる場面における男女共同参画の推進

施策方針（４）暮らしやすい社会の意識づくり

（５）誰も孤立させない社会に向けた支援

（６）家庭・地域・学校における男女共同参画の推進

重点目標Ⅲ 暴力のない社会づくり

施策方針（７）DV等を根絶する環境づくり支援

I 調査の実施方法等

調査の実施方法等

- (1) 調査対象
 - ・令和3年6月30日現在の横須賀市住民15歳以上80歳未満の男女各1,000人、計2,000人を無作為に抽出
- (2) 調査の実施主体
 - ・横須賀市
- (3) 調査の配布・回収
 - ・メール便による配布、郵便による回収
- (4) 調査期間
 - ・令和3年8月3日(火)～8月31日(火)
- (5) 回収数(回収率)
 - ・911件(45.5%)

II 調査結果の表示について

- ・この調査報告書に掲載している数値は四捨五入の端数処理をしているため、合計が100%とならない場合があります。
- ・「回答者の属性」の部分を除き、数値データには無回答は含めていません。
- ・属性(性別、年齢等)無回答であった人の回答は、全体集計には含んでいますが、属性ごとの集計には含んでいません。
- ・調査結果の表中に「選択率」の表記がある数値は、選択肢を複数選べる設問において、各選択肢を何%の人が選んだかを表します。

Ⅲ 調査結果の概要

1 男女共同参画（社会）に関する考え方について

- (1) 男女共同参画（社会）の言葉の認知度（問1（1））
 - ・「知っている」と回答した人が※80.5%でした。
 - ※第5次プランの目標値100% 前回調査（平成28年度）54.7%
- (2) 各場面（学校、就職、家庭、地域など）における男女共同参画の進捗状況（問2）
 - ・「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が6割を超えたのは、「④学校生活などの教育の場」のみでした。
 - ・前回調査同様、すべての項目で男性が女性より「そう思う」「どちらかといえば思う」の合計が多くなっています。
- (3) 男女共同参画を進んでいるか（問3）
 - ・「進んでいる」と回答した人が34.2%でした。
- (4) 男女共同参画の阻害要因（問4）
 - ・前回調査同様、男女共同参画を阻害している理由としては「社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから」という回答が最も多くなっています。

2 生活の中での男女共同参画について

- (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方（問5②）
 - ・「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の合計が※82.1%でした。
 - ※第5次プランの目標値65.8% 前回調査（平成28年度）65.8%
- (2) 家事や子育て、介護の担い手（現状と理想）（問6）
 - ・現状では、10項目中、6項目で「主に妻」と回答した人が最も多くなっています。（その他・該当なしを除く）
 - ・理想では「夫と妻で分担協力」とした回答がすべての項目で最も多くなっています。（その他・該当なしを除く）
- (3) 家庭での育児や教育に関する考え方（問7）
 - ・4項目中、「①職業や結婚などの人生設計に対する助言は男女で区別すべきである」との考え方について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の合計が※26.2%でした。
 - ※前回調査（平成28年度）40.6%
- (4) 介護・看護を受けるとしたら、誰に世話をしてほしいか（問8）
 - ・前回調査同様「施設に入所する」との回答が最も多く、これに「在宅介護サービスを利用する」「配偶者（夫または妻）」が続いています。

3 女性の活躍推進について

- (1) 女性の働き方（現状と理想）（問9）
 - ・「（1）女性の現在の働き方」では「ずっと働く」（働いている）と回答した人の合計が※51.1%でした。
※第5次プランの目標値70% 前回調査（平成28年度 45.2%）
 - ・「（2）女性の理想の働き方」では「ずっと働く」と回答した人の合計が※52.6%でした。
- (2) 女性が長く働き続けるために必要なこと（問10）
 - ・「保育サービスの整備の充実」と回答した人が最も多く47.2%でした。
- (3) 政治、経済、地域社会において、重要な決定を行う話し合いの場に女性の割合を増やそうとする取り組み（問11）
 - ・すべての項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が75%を超えました。

4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

- (1) ワーク・ライフ・バランスを進めるために必要な取り組み（問12）
 - ・「両立支援のための制度の強化」と回答した人が最も多く、「社会全体に対する意識づくり」と回答した人が続きます。
- (2) 育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇の取得状況（問13）
 - ・「①育児休業」、「②看護休暇」は女性の取得率が高く、「③介護休業」「④介護休暇」は男性が高くなっています。

5 男性の育児や介護の参画について

- (1) 男性が育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇を取得することについての考え（問14）
 - ・「積極的に取るべき」「どちらかといえば取る方がよい」と回答した人の回答の合計は、4項目ともに9割以上でした。
- (2) 男性の育児休業や介護休業の取得率が少ない理由（問15）
 - ・「職場の理解が得られないから」と回答した人が最も多くなっています。
- (3) 男性が家事、育児、介護、地域活動などに積極的に参加するために必要な取り組み（問16）
 - ・前回調査同様、「労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする」と回答した人が最も多くなっています。

6 性別に基づく人権侵害（DV、セクハラ）について

- (1) 女性の人権が侵害されていると感じる場合（問17）
 - ・「レイプ」と回答した人が79.2%と最も多く、これに「夫や恋人からの暴力」「痴漢」が続いています。
- (2) セクハラ被害の経験（本人または家族や友人の被害）（問18）
 - ・「⑧性的な冗談や会話につきあわされた」について、「ある」と回答した男性は15.0%、女性は17.3%でした。
※前回調査 男性17.0% 女性24.9%
- (3) セクハラをなくすために必要な取り組み（問19）
 - ・「セクハラは人権侵害だという社会意識づくり」と回答した人が48.6%で最も多くなっています。
- (4) 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力は、一般社会における暴力と同様と思うか（問20）
 - ・「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の合計が※94.2%でした。
- (5) DVに関する相談機関の認知度（問21）
 - ・「警察」と回答した人が84.8%で最も多く、これに「市役所」が35.4%と続いています。
 - ・DVに関して「相談できる機関を知らない」と回答した人が※10.3%でした。
※第5次プランの目標値100%
- (6) DVに対する対策や支援で、重要だと思う取り組み（問22）
 - ・「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」と回答した人が53.9%で最も多く、これに「家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発」「加害者に対する厳正な対処」が続いています。

7 性的マイノリティについて

- (1) 性的マイノリティ（またはLGBT）の言葉の認知度（問23）
 - ・性的マイノリティの認知度88.1%、LGBTの認知度85.1%でした。
第5次プランの目標値100%
- (2) 性別で悩んだ経験の有無（問24）
 - ・「はい（悩んだことがある）」と回答した人が6.5%でした。
- (3) 性的マイノリティの方々にとって、生活しづらい社会かどうかの考え（問25）
 - ・「思う」「どちらかと言えば思う」と回答した人の合計が85.2%でした。
- (4) 性的マイノリティの方々が生活しやすくなるための取り組み（問26）
 - ・「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」と回答した人が最も多く、「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」が続いています。

- (5) 身の回りに性的マイノリティがいたらどう思うか (問28)
- ・「特になんとも思わない」が55%と最も多く、「もし困っていたらサポートしたい」が36%で続いています。

8 男女共同参画推進のために必要な取り組みについて

- (1) 男女共同参画社会をつくるために最も必要だと思うこと (問27)
- ・「①個人で心掛けること」では、「男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ」と回答した人が最も多くなっています。
 - ・「②家庭での取り組み」では、「家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する」と回答した人が最も多くなっています。
 - ・「③社会全体の取り組み」では、「性別に関わらず自分の人生を決められるよう、偏見や先入観を排除する」と回答した人が最も多くなっています。
 - ・「④横須賀市における取り組み」では、「事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける」と回答した人が最も多くなっています。
 - ・①～④において最も多い回答項目は、前回調査とすべて同じでした。

9 新型コロナウイルス禍における影響について

- (1) 新型コロナウイルスの影響による変化 (問31)
- ・自分の生活や行動面 (家事・育児・学習・趣味等) 以外の項目では、「変化がなかった」が最も多くなっています。
 - ・「最も好ましい変化があったもの」は「自分や家族の働き方」が最も多く、「最も好ましくない変化があったもの」は「自分の生活や行動面」が最も多くなっています。

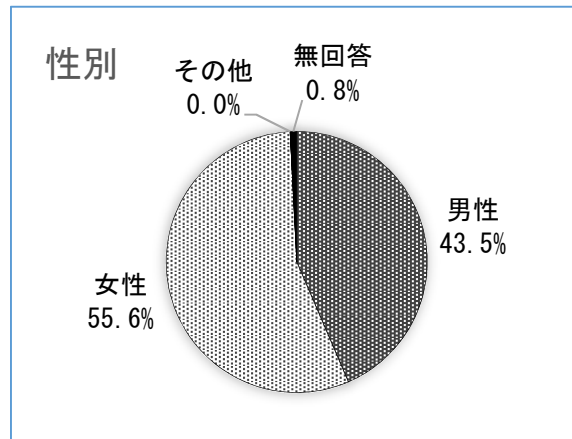
IV 集計結果

回答者の属性

①性別

回答者の55.6%が女性となっています。その他を選択した人はいませんでした。

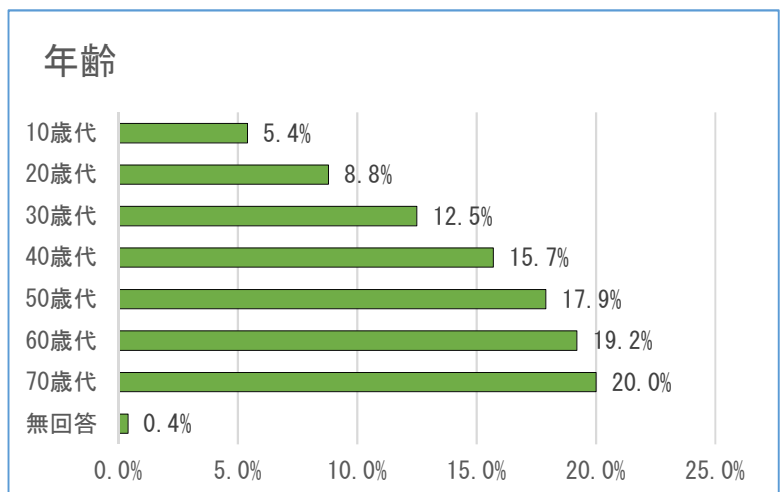
選 択 肢	回答数	割合
男性	397 人	43.5%
女性	505 人	55.6%
その他	0 人	0.0%
無回答	9 人	0.8%
合 計	911 人	100.0%



②年齢

70歳代の回答者が最も多く、50歳代以上を合計すると、57.1%となっています。

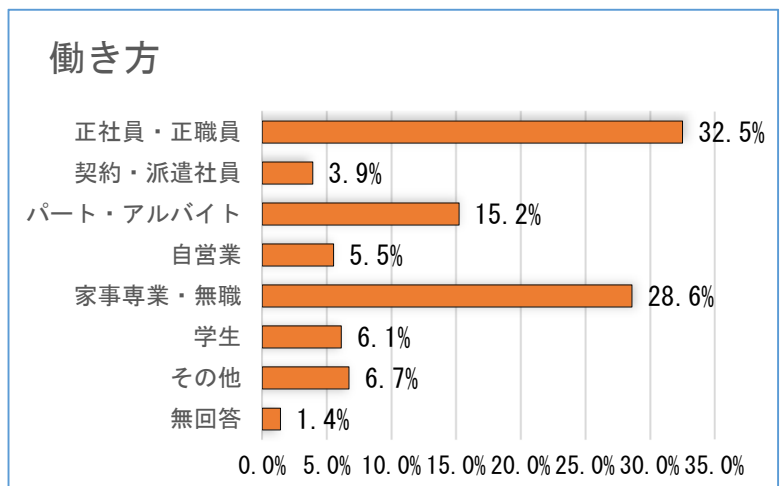
選 択 肢	回答数	割合
15 歳～19 歳	49 人	5.4%
20 歳～29 歳	82 人	8.8%
30 歳～39 歳	115 人	12.5%
40 歳～49 歳	143 人	15.7%
50 歳～59 歳	162 人	17.9%
60 歳～69 歳	174 人	19.2%
70 歳～79 歳	181 人	20.0%
無回答	5 人	0.4%
合 計	911 人	100.0%



③働き方

回答者の32.5%が「正社員・正職員」で最も多く、これに「家事専業・無職」、「パート・アルバイト」が続いています。

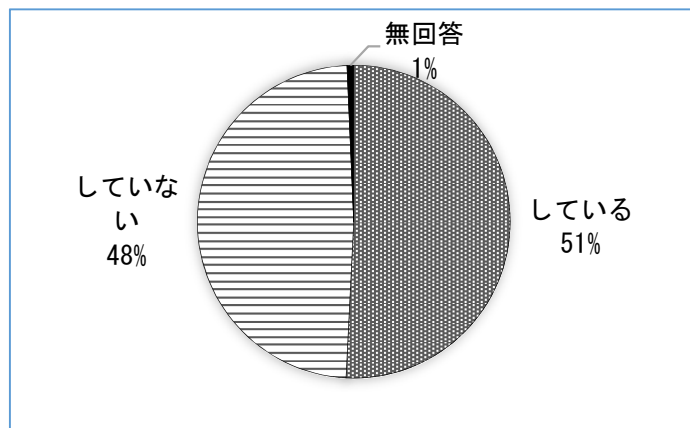
選 択 肢	回答数	割合
正社員・正職員	295 人	32.5%
契約・派遣社員	35 人	3.9%
パート・アルバイト	139 人	15.2%
自営業	51 人	5.5%
家事専業・無職	259 人	28.6%
学生	56 人	6.1%
その他	61 人	6.7%
無回答	15 人	1.4%
合 計	911 人	100.0%



④結婚はしていますか。

「結婚をしている（事実婚・パートナーシップを含む）」の回答が、50.8%となっています。

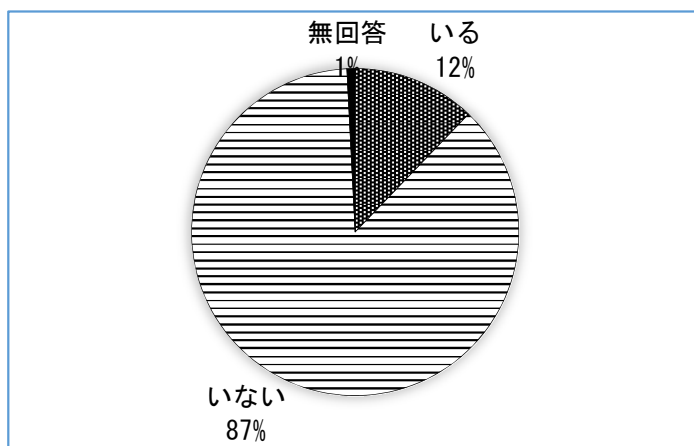
選 択 肢	回答数	割合
している（事実婚を含む）	463 人	50.8%
していない（離別・死別を含む）	441 人	48.5%
無回答	7 人	0.7%
合 計	911 人	100.0%



⑤中学生以下のお子さんはいますか。

「いる」の回答が、12.2%となっています。

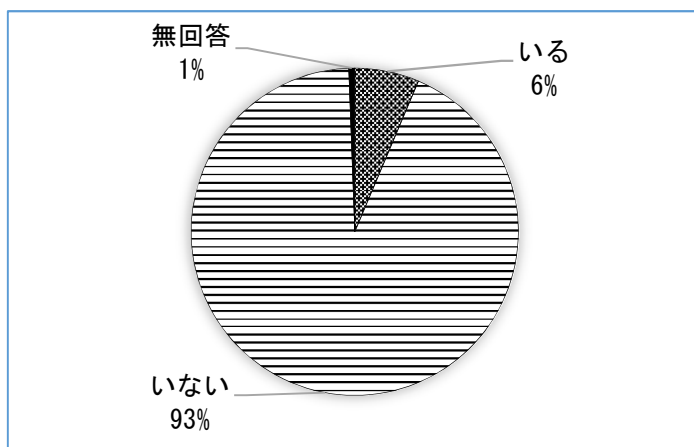
選 択 肢	回答数	割合
いる	112 人	12.2%
いない	790 人	87.1%
無回答	9 人	0.8%
合 計	911 人	100.0%



⑥同一世帯に介護が必要な家族（配偶者以外）はいますか。

「いる」の回答が、6.4%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
いる	58 人	6.4%
いない	847 人	93.0%
無回答	6 人	0.6%
合 計	911 人	100.0%



1 男女共同参画（社会）に関する考え方について

問1 次の(1)～(5)に掲げる言葉を知っていましたか。それぞれ1つ選んでください。

男女共同参画という言葉「言葉の意味も含めて知っていた」「聞いたことはあるが意味までは知らなかった」の回答の合計が、80.5%となっています。

【平成28年度調査・第5次プラン目標値との比較】

平成28年度調査での認知度54.7%からは増加しましたが、目標値100%は下回りました。

(1) 男女共同参画【第5次男女共同参画プラン指標・数値目標対象 目標 100%】

選択肢	全体	男性	女性	H28
言葉の意味も含めて知っていた	49.9%	50.9%	48.8%	54.7%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	30.6%	33.6%	28.5%	
聞いたこともないし意味も知らなかった	19.5%	15.5%	22.7%	45.3%
合計人数	881人	381人	488人	866人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
言葉の意味も含めて知っていた	49.9%	49.0%	54.4%	57.4%	38.6%	46.5%	52.1%	53.8%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	30.6%	28.6%	29.1%	24.1%	37.9%	30.2%	30.3%	30.6%
聞いたこともないし意味も知らなかった	19.5%	22.4%	26.5%	18.5%	23.6%	23.3%	17.6%	15.6%
		49人	79人	108人	140人	159人	165人	173人

(2) ジェンダー (gender)

選択肢	全体	男性	女性
言葉の意味も含めて知っていた	63.0%	58.7%	66.0%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	27.0%	29.7%	25.1%
聞いたこともないし意味も知らなかった	10.0%	11.6%	8.8%
合計人数	878人	380人	486人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
言葉の意味も含めて知っていた	63.0%	67.3%	77.2%	80.6%	65.7%	71.5%	61.8%	35.1%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	27.0%	28.6%	13.9%	19.4%	30.0%	20.3%	26.7%	41.5%
聞いたこともないし意味も知らなかった	10.0%	4.1%	8.9%	0.0%	4.3%	8.2%	11.5%	23.4%
		49人	79人	108人	140人	158人	165人	171人

(3) ダイバーシティ (diversity)

選択肢	全体	男性	女性
言葉の意味も含めて知っていた	29.5%	35.0%	25.1%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	41.0%	40.8%	40.9%
聞いたこともないし意味も知らなかった	29.5%	24.2%	34.0%
合計人数	878人	380人	486人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
言葉の意味も含めて知っていた	29.5%	22.4%	35.4%	45.4%	33.6%	32.5%	27.4%	14.7%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	41.0%	51.0%	29.1%	31.5%	48.6%	47.5%	38.4%	39.4%
聞いたこともないし意味も知らなかった	29.5%	26.5%	35.4%	23.1%	17.9%	20.0%	34.1%	45.9%
		49人	79人	108人	140人	160人	164人	170人

(4) 持続可能な開発目標 (SDGs)

選択肢	全体		男性	女性
言葉の意味も含めて知っていた	44.4%	69.7%	48.9%	40.9%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	25.3%		26.6%	23.6%
聞いたこともないし意味も知らなかった	30.4%	30.4%	24.5%	35.5%
合計人数		879人	380人	487人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
言葉の意味も含めて知っていた	44.4%	61.2%	43.0%	54.6%	45.0%	50.0%	43.0%	30.0%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	25.3%	22.4%	25.3%	21.3%	27.9%	25.6%	26.1%	23.5%
聞いたこともないし意味も知らなかった	30.4%	16.3%	31.6%	24.1%	27.1%	24.4%	30.9%	46.5%
		49人	79人	108人	140人	160人	165人	170人

(5) ジェンダー・ギャップ指数

選択肢	全体		男性	女性
言葉の意味も含めて知っていた	13.0%	45.7%	14.2%	11.7%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	32.7%		34.7%	30.8%
聞いたこともないし意味も知らなかった	54.4%	54.4%	51.1%	57.5%
合計人数		879人	380人	487人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
言葉の意味も含めて知っていた	13.0%	16.3%	16.5%	14.8%	11.4%	13.1%	14.5%	8.8%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	32.7%	36.7%	26.6%	27.8%	35.7%	35.0%	32.1%	32.4%
聞いたこともないし意味も知らなかった	54.4%	46.9%	57.0%	57.4%	52.9%	51.9%	53.3%	58.8%
		49人	79人	108人	140人	160人	165人	170人

問2 わが国では、以下の各場面で、男女は対等に活躍している、あるいは男女共同参画が進んでいると思いますか。①から⑩の項目ごとにあなたの考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合計して、6割を超えたのは「④学校生活などの教育の場」でした。全体的に平成28年度調査と比較して男女は対応に活躍している・男女共同参画が進んでいると考えている割合が減少傾向にあります。全ての項目で女性が男性より、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が少なくなっています。

①社会全般の風潮

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	6.1%	36.1%	10.8%	46.9%	2.5%	28.1%	8.2%	49.7%
どちらかといえばそう思う	30.0%		36.1%		25.6%		41.5%	
どちらかといえばそう思わない	45.3%	63.9%	37.4%	53.1%	51.2%	71.9%	40.7%	50.2%
そう思わない	18.6%		15.7%		20.7%		9.5%	
合計人数	883人		388人		488人		886人	

②法律・制度での扱い

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	7.3%	43.0%	11.6%	53.6%	3.9%	34.8%	11.4%	53.0%
どちらかといえばそう思う	35.7%		42.0%		30.9%		41.6%	
どちらかといえばそう思わない	41.3%	57.0%	32.0%	46.4%	48.7%	65.2%	38.4%	47.0%
そう思わない	15.7%		14.4%		16.5%		8.6%	
合計人数	879人		388人		485人		880人	

③政府や企業での重要な意思決定の場

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	4.7%	26.2%	7.0%	28.4%	2.9%	19.8%	6.3%	36.1%
どちらかといえばそう思う	21.5%		27.7%		16.9%		29.8%	
どちらかといえばそう思わない	47.9%	73.8%	42.3%	73.0%	52.3%	80.3%	46.8%	63.8%
そう思わない	25.9%		23.0%		28.0%		17.0%	
合計人数	876人		383人		486人		882人	

④学校生活などの教育の場【第5次男女共同参画プラン指標・数値目標対象 目標 70.3%】

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	13.2%	60.8%	16.9%	64.2%	10.2%	58.2%	21.7%	70.2%
どちらかといえばそう思う	47.6%		47.3%		48.0%		48.5%	
どちらかといえばそう思わない	29.4%	39.2%	25.7%	35.8%	32.6%	41.8%	24.2%	29.8%
そう思わない	9.8%		10.1%		9.2%		5.6%	
合計人数	871人		385人		479人		876人	

⑤就職の機会、職場での働き方や処遇

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	6.1%	32.8%	9.1%	42.1%	3.7%	25.9%	6.1%	39.2%
どちらかといえばそう思う	26.7%		33.0%		22.2%		33.1%	
どちらかといえばそう思わない	47.6%	67.2%	41.8%	57.9%	52.0%	74.2%	44.9%	60.7%
そう思わない	19.6%		16.1%		22.2%		15.8%	
合計人数	879人		385人		487人		879人	

⑥家庭内での決定権や家事の分担

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	8.9%	41.2%	11.7%	50.6%	6.8%	33.9%	15.4%	52.8%
どちらかといえばそう思う	32.3%		38.9%		27.1%		37.4%	
どちらかといえばそう思わない	37.4%	58.9%	35.2%	49.4%	39.4%	66.1%	35.5%	47.2%
そう思わない	21.5%		14.2%		26.7%		11.7%	
合計人数	880人		386人		487人		879人	

⑦町内会・自治会の活動【第5次男女共同参画プラン指標・数値目標対象 目標 48.0%】

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	8.0%	44.5%	11.4%	50.5%	5.2%	39.4%	10.7%	47.9%
どちらかといえばそう思う	36.5%	55.5%	39.1%	49.5%	34.2%	60.6%	37.2%	52.1%
どちらかといえばそう思わない	39.3%		35.0%		43.2%		41.8%	
そう思わない	16.2%	14.5%	17.4%	10.3%				
合計人数	875人		386人		482人		876人	

⑧PTAやボランティアなどの地域活動

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	9.5%	49.5%	12.6%	56.3%	6.9%	44.4%	15.2%	56.8%
どちらかといえばそう思う	40.0%		43.7%		37.5%		41.6%	
どちらかといえばそう思わない	36.7%	50.5%	31.8%	43.6%	40.6%	55.6%	34.6%	43.2%
そう思わない	13.8%		11.8%		15.0%		8.6%	
合計人数	867人		380人		480人		875人	

⑨テレビや新聞での扱われ方

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	7.0%	45.4%	10.9%	55.1%	3.9%	37.7%	9.8%	54.9%
どちらかといえばそう思う	38.4%		44.2%		33.8%		45.1%	
どちらかといえばそう思わない	40.9%	54.6%	31.9%	44.9%	48.0%	62.2%	36.9%	45.2%
そう思わない	13.7%		13.0%		14.2%		8.3%	
合計人数	877人		385人		485人		881人	

⑩人生を決める選択肢や自由さ

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	8.7%	40.0%	12.1%	45.6%	6.0%	35.4%	11.5%	46.5%
どちらかといえばそう思う	31.3%		33.5%		29.4%		35.0%	
どちらかといえばそう思わない	41.2%	59.9%	38.7%	54.4%	43.6%	64.6%	39.4%	53.5%
そう思わない	18.7%		15.7%		21.0%		14.1%	
合計人数	881人		388人		486人		884人	

問3 あなたの身の回りで男女共同参画は進んでいると思いますか。どちらか1つ選んでください。

(平成28年度調査の選択肢は「進める必要がある・必要がない」でした。)

「進んでいる」の回答が34.2%となっています。男女とも進んでいないと思う人が多くなっています。

令和3年度

選択肢	全体	男性	女性
進んでいる	34.2%	41.4%	28.8%
進んでいない	65.8%	58.6%	71.2%
合計人数	868人	382人	479人

平成28年度

H28 選択肢	全体	男性	女性
進める必要がある	79.6%	76.7%	81.9%
進める必要はない	20.4%	23.3%	18.1%
合計人数	873人	378人	492人

問4 男女共同参画がなかなか進まない理由として、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

(問3で「2 進んでいない」と回答した場合のみ回答)

前回28年度の調査同様、「社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから」の回答が最も多く32.1%となっています。「女性の役割は家庭内の家事、育児、介護などという考えが強いから」の回答を選んだ女性は男性より7ポイント高くなっています。

選択肢	全体	男性	女性	H28
人を性別によって役割を区別する考え方や慣習が根強いから	30.0%	30.0%	29.6%	20.1%
女性は意思決定の場への進出が遅れていることで発言力が弱いから	3.9%	5.6%	2.8%	2.7%
女性の役割は家庭内での家事、育児、介護などという考えが強いから	15.5%	11.3%	18.6%	17.3%
社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから	32.1%	31.9%	32.7%	27.5%
女性には高い職業能力や意思決定の場に出るための経験や機会が不足しているから	3.4%	5.2%	2.2%	6.7%
仕事と家庭の両立が図れる行政サービス、民間サービスが不足しているから	11.9%	11.7%	11.9%	22.9%
その他	3.2%	4.2%	2.2%	2.8%
合計人数	536人	213人	318人	672人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・政策の優先度が低く、主なテーマとして扱われることが少なく意識が低い。
- ・意思決定権や責任を負う事を望まない女性（又は男性）もいると思う
- ・男女平等が女性の不平等解消の観点でしか語られず、男性の不平等はないもののように扱われている。

2 生活の中での男女共同参画について

問5 次の①から⑤のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

① 女性は子どもを産む／産まないを選ぶ権利を持っている。

選択肢	全体		男性		女性	
そう思う	59.7%	87.3%	59.2%	88.3%	60.0%	86.6%
どちらかといえばそう思う	27.6%		29.1%		26.6%	
どちらかといえばそう思わない	8.1%	12.7%	7.3%	11.8%	8.9%	13.4%
そう思わない	4.6%		4.5%		4.5%	
合計人数	827人		358人		462人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	59.7%	77.1%	72.7%	78.5%	58.8%	58.5%	52.2%	44.1%
どちらかといえばそう思う	27.6%	14.6%	18.2%	15.9%	30.1%	33.3%	30.6%	33.6%
どちらかといえばそう思わない	8.1%	6.3%	6.5%	1.9%	8.1%	4.8%	12.1%	13.2%
そう思わない	4.6%	2.1%	2.6%	3.7%	2.9%	3.4%	5.1%	9.2%
		48人	77人	107人	136人	147人	157人	152人

【結婚（事実婚・パートナーシップを含む）の有無別】

選択肢	全体	男性		女性	
		結婚している	結婚していない	結婚している	結婚していない
そう思う	59.7%	55.7%	62.4%	56.6%	64.2%
どちらかといえばそう思う	27.6%	34.1%	24.3%	28.3%	24.5%
どちらかといえばそう思わない	8.1%	6.6%	7.9%	9.7%	7.8%
そう思わない	4.6%	3.6%	5.3%	5.4%	3.4%
合計人数		167人	189人	258人	204人

② 男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るべきである。

【第5次男女共同参画プラン指標・数値目標対象 目標 100%】

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	2.1%	17.9%	2.2%	22.8%	1.9%	14.0%	3.5%	34.2%
どちらかといえばそう思う	15.8%		20.6%		12.1%		30.7%	
どちらかといえばそう思わない	30.3%	82.1%	28.1%	77.1%	32.3%	86.0%	37.8%	65.8%
そう思わない	51.8%		49.0%		53.7%		28.0%	
合計人数	827人		359人		462人		903人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	2.1%	2.1%	1.3%	0.0%	2.9%	2.7%	0.0%	4.6%
どちらかといえばそう思う	15.8%	8.3%	13.0%	12.3%	9.6%	16.3%	19.0%	23.5%
どちらかといえばそう思わない	30.3%	31.3%	23.4%	23.6%	33.1%	36.1%	28.5%	32.0%
そう思わない	51.8%	58.3%	62.3%	64.2%	54.4%	44.9%	52.5%	39.9%
		48人	77人	106人	136人	147人	158人	153人

【結婚（事実婚・パートナーシップを含む）の有無別】

選択肢	全体	男性		女性	
		結婚している	結婚していない	結婚している	結婚していない
そう思う	2.1%	2.4%	2.1%	1.9%	2.0%
どちらかといえばそう思う	15.8%	20.2%	21.2%	14.0%	9.8%
どちらかといえばそう思わない	30.3%	31.0%	25.9%	31.8%	32.8%
そう思わない	51.8%	46.4%	50.8%	52.3%	55.4%
合計人数		168人	189人	258人	204人

③ 結婚したら夫の姓を名乗るべきである。

選択肢	全体		男性		女性	
そう思う	9.6%	36.2%	12.1%	39.6%	7.8%	33.6%
どちらかといえばそう思う	26.6%		27.5%		25.8%	
どちらかといえばそう思わない	25.8%	63.8%	27.0%	60.4%	25.2%	66.4%
そう思わない	38.0%		33.4%		41.2%	
合計人数	824人		356人		461人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	9.6%	2.1%	2.6%	6.6%	4.4%	7.5%	8.3%	25.7%
どちらかといえばそう思う	26.6%	37.5%	24.7%	21.7%	23.7%	20.4%	26.9%	35.5%
どちらかといえばそう思わない	25.8%	16.7%	23.4%	21.7%	26.7%	33.3%	32.1%	18.4%
そう思わない	38.0%	43.8%	49.4%	50.0%	45.2%	38.8%	32.7%	20.4%
		48人	77人	106人	135人	147人	156人	152人

【結婚（事実婚・パートナーシップを含む）の有無別】

選択肢	全体	男性		女性	
		結婚している	結婚していない	結婚している	結婚していない
そう思う	9.6%	11.4%	12.8%	8.2%	7.4%
どちらかといえばそう思う	26.6%	28.7%	26.2%	27.2%	24.0%
どちらかといえばそう思わない	25.8%	32.3%	22.5%	26.5%	23.5%
そう思わない	38.0%	27.5%	38.1%	38.1%	45.1%
合計人数		167人	187人	257人	204人

④ 男性でも女性でも必ずしも結婚する必要はない。

選択肢	全体		男性		女性	
そう思う	57.9%	82.8%	52.1%	79.0%	62.3%	85.6%
どちらかといえばそう思う	24.9%		26.9%		23.3%	
どちらかといえばそう思わない	11.5%	17.3%	15.4%	21.0%	8.6%	14.4%
そう思わない	5.8%		5.6%		5.8%	
合計人数	828人		357人		464人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	57.9%	70.8%	68.8%	78.3%	60.3%	61.0%	44.6%	43.2%
どちらかといえばそう思う	24.9%	22.9%	22.1%	17.0%	30.1%	21.9%	29.3%	25.8%
どちらかといえばそう思わない	11.5%	4.2%	5.2%	0.9%	5.9%	11.6%	20.4%	20.0%
そう思わない	5.8%	2.1%	3.9%	3.8%	3.7%	5.5%	5.7%	11.0%
		48人	77人	106人	136人	146人	157人	155人

【結婚（事実婚・パートナーシップを含む）の有無別】

選択肢	全体	男性		女性	
		結婚している	結婚していない	結婚している	結婚していない
そう思う	57.9%	48.2%	55.0%	56.8%	69.3%
どちらかといえばそう思う	24.9%	22.9%	30.7%	25.9%	20.0%
どちらかといえばそう思わない	11.5%	22.3%	9.5%	12.4%	3.9%
そう思わない	5.8%	6.6%	4.8%	5.0%	6.8%
合計人数		166人	189人	259人	205人

⑤ 離婚に対してマイナスなイメージがある。

選択肢	全体		男性		女性	
そう思う	18.9%	58.8%	22.3%	63.8%	16.3%	54.7%
どちらかといえばそう思う	39.9%		41.5%		38.4%	
どちらかといえばそう思わない	21.8%	41.3%	20.6%	36.2%	23.0%	45.3%
そう思わない	19.5%		15.6%		22.3%	
合計人数	827人		359人		461人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	18.9%	16.7%	27.3%	19.8%	24.3%	10.9%	16.5%	20.4%
どちらかといえばそう思う	39.9%	39.6%	31.2%	39.6%	36.8%	45.6%	44.3%	36.2%
どちらかといえばそう思わない	21.8%	31.3%	22.1%	15.1%	22.8%	19.7%	21.5%	25.0%
そう思わない	19.5%	12.5%	19.5%	25.5%	16.2%	23.8%	17.7%	18.4%
		48人	77人	106人	136人	147人	158人	152人

【結婚（事実婚・パートナーシップを含む）の有無別】

選択肢	全体	男性		女性	
		結婚している	結婚していない	結婚している	結婚していない
そう思う	18.9%	22.6%	22.2%	15.5%	17.2%
どちらかといえばそう思う	39.9%	50.6%	33.3%	41.1%	35.0%
どちらかといえばそう思わない	21.8%	16.1%	24.3%	22.1%	24.1%
そう思わない	19.5%	10.7%	20.1%	21.3%	23.6%
合計人数		168人	189人	258人	203人

⑥ 同性のカップルが養親や里親になってもよい。

選択肢	全体		男性		女性	
そう思う	39.9%	70.0%	28.5%	59.6%	48.2%	77.8%
どちらかといえばそう思う	30.1%		31.1%		29.6%	
どちらかといえばそう思わない	18.8%	29.9%	24.9%	40.4%	14.5%	22.2%
そう思わない	11.1%		15.5%		7.7%	
合計人数	817人		354人		456人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	39.9%	52.1%	51.9%	55.7%	48.1%	31.9%	32.3%	26.7%
どちらかといえばそう思う	30.1%	33.3%	23.4%	23.6%	24.4%	44.4%	31.6%	26.7%
どちらかといえばそう思わない	18.8%	10.4%	19.5%	13.2%	14.8%	16.7%	24.1%	26.0%
そう思わない	11.1%	4.2%	5.2%	7.5%	12.6%	6.9%	12.0%	20.5%
		48人	77人	106人	135人	144人	158人	146人

【結婚（事実婚・パートナーシップを含む）の有無別】

選択肢	全体	男性		女性	
		結婚している	結婚していない	結婚している	結婚していない
そう思う	39.9%	23.8%	32.6%	42.9%	55.0%
どちらかといえばそう思う	30.1%	35.7%	26.6%	33.5%	24.8%
どちらかといえばそう思わない	18.8%	25.6%	24.5%	15.7%	12.9%
そう思わない	11.1%	14.9%	16.3%	7.9%	7.4%
合計人数		168人	184人	254人	202人

問6 家事などは誰が日常的に担っていますか。また、理想ではどうしたいと考えていますか。

①から⑩の項目ごとに1つずつ選んでください。⑤から⑩は、該当ない場合（お子さんや介護・看護する方がいない場合）は（1）（2）とも「該当しない」を回答してください。

現在の担い手では、「主に妻」の回答が多い傾向にあります。

理想の担い手では、「夫と妻で分担協力」とした回答がすべての項目で、最も多くなっています。

【平成28年度調査との比較】

回答割合の多かった選択肢の傾向は、現在の担い手、理想の担い手ともに、平成28年度調査とほぼ変わりませんでした。

①炊事

選択肢	（1）現在の担い手				（2）理想の担い手			
	全体	男性	女性	H28	全体	男性	女性	H28
夫と妻で分担協力	22.7%	30.7%	17.5%	20.1%	75.7%	74.1%	76.7%	68.7%
主に妻	73.5%	64.8%	79.2%	76.1%	19.1%	21.3%	17.7%	29.8%
主に夫	2.4%	3.9%	1.5%	2.2%	0.5%	0.6%	0.4%	0.2%
夫と妻以外の家族	0.7%	0.6%	0.7%	0.9%	0.5%	0.6%	0.4%	0.2%
外部サービスを利用	0.4%	0.0%	0.7%	0.0%	1.9%	1.7%	2.0%	0.6%
その他	0.2%	0.0%	0.4%	0.6%	2.3%	1.7%	2.8%	0.6%
合計人数	449人	179人	269人	536人	424人	174人	249人	504人

②洗濯

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	H28	全体	男性	女性	H28
夫と妻で分担協力	23.3%	29.6%	19.3%	16.8%	74.5%	75.7%	73.5%	60.9%
主に妻	68.9%	60.3%	74.4%	77.6%	18.9%	17.9%	19.7%	36.5%
主に夫	6.4%	8.4%	5.2%	3.9%	1.7%	2.3%	1.2%	1.0%
夫と妻以外の家族	0.9%	1.1%	0.7%	1.1%	0.2%	0.6%	0.0%	0.4%
外部サービスを利用	0.2%	0.6%	0.4%	0.0%	2.1%	1.2%	2.8%	0.4%
その他	0.2%	0.0%	0.0%	0.6%	2.6%	2.4%	2.8%	0.8%
合計人数	450人	179人	270人	536人	423人	173人	302人	504人

③掃除

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	H28	全体	男性	女性	H28
夫と妻で分担協力	35.1%	44.7%	28.9%	27.9%	84.3%	86.1%	83.0%	76.4%
主に妻	57.6%	46.9%	64.4%	65.2%	7.6%	6.9%	8.1%	19.8%
主に夫	6.2%	6.7%	5.9%	5.2%	1.9%	2.3%	1.6%	1.6%
夫と妻以外の家族	0.2%	0.6%	0.4%	0.9%	0.5%	0.6%	0.4%	0.2%
外部サービスを利用	0.2%	1.1%	0.4%	0.0%	2.9%	1.7%	3.6%	1.2%
その他	0.7%	0.0%	0.0%	0.7%	2.9%	2.3%	3.2%	0.8%
合計人数	450人	179人	270人	534人	421人	173人	247人	504人

④日常の買い物（食料品、日用品など）

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	H28	全体	男性	女性	H28
夫と妻で分担協力	49.8%	53.9%	47.2%	44.9%	83.2%	85.5%	81.5%	79.4%
主に妻	41.3%	33.7%	46.1%	49.9%	9.2%	6.4%	11.3%	16.5%
主に夫	6.5%	10.1%	4.1%	3.0%	1.7%	3.5%	0.4%	1.2%
夫と妻以外の家族	0.4%	0.6%	0.4%	0.4%	0.7%	0.6%	0.8%	0.2%
外部サービスを利用	0.7%	0.6%	0.7%	0.4%	2.4%	1.2%	3.2%	1.2%
その他	0.7%	0.6%	0.7%	1.5%	2.8%	2.9%	2.8%	1.6%
合計人数	448人	213人	269人	535人	422人	173人	248人	504人

⑤子どもの身のまわりの世話

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	H28	全体	男性	女性	H28
夫と妻で分担協力	16.3%	17.6%	15.3%	22.2%	48.3%	45.6%	50.0%	69.6%
主に妻	32.3%	27.8%	35.5%	59.0%	6.3%	7.6%	5.4%	21.3%
主に夫	0.2%	0.6%	0.4%	0.2%	0.5%	0.6%	0.8%	0.0%
夫と妻以外の家族	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	1.0%	0.0%	1.3%	0.7%
外部サービスを利用	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他・該当なし	50.9%	54.0%	48.8%	17.9%	43.9%	46.2%	42.5%	8.4%
合計人数	424人	176人	248人	441人	412人	171人	240人	450人

⑥子どものしつけ

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	H28	全体	男性	女性	H28
夫と妻で分担協力	29.1%	30.7%	28.0%	46.5%	53.3%	52.0%	53.9%	86.5%
主に妻	20.4%	16.5%	23.2%	34.5%	2.7%	2.3%	2.9%	3.3%
主に夫	0.2%	0.0%	0.4%	1.4%	0.2%	0.0%	0.4%	2.2%
夫と妻以外の家族	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
外部サービスを利用	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他・該当なし	50.2%	52.8%	48.4%	17.0%	43.8%	45.6%	42.7%	7.5%
合計人数	426人	176人	250人	441人	413人	171人	241人	453人

⑦保育園・幼稚園、習い事などの送迎

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	H28	全体	男性	女性	H28
夫と妻で分担協力	12.7%	14.0%	11.8%	46.5%	43.3%	39.9%	45.4%	86.5%
主に妻	24.4%	19.2%	28.0%	34.5%	3.9%	4.2%	3.8%	3.3%
主に夫	2.4%	1.7%	2.8%	1.4%	1.5%	1.2%	1.7%	2.2%
夫と妻以外の家族	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.5%	0.6%	0.4%	0.4%
外部サービスを利用	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.6%	0.8%	0.0%
その他・該当なし	60.5%	65.1%	57.3%	17.0%	50.1%	53.6%	47.9%	7.5%
合計人数	418人	171人	246人	441人	409人	168人	240人	453人

⑧子どもと遊ぶ、勉強などを教える

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	H28	全体	男性	女性	H28
夫と妻で分担協力	25.1%	29.0%	22.3%	48.7%	50.6%	50.6%	50.4%	86.8%
主に妻	17.1%	11.4%	21.1%	28.0%	1.2%	0.6%	1.6%	1.3%
主に夫	2.1%	2.8%	1.6%	4.1%	0.7%	0.6%	0.8%	2.5%
夫と妻以外の家族	0.2%	0.0%	0.4%	0.5%	0.2%	0.0%	0.4%	0.7%
外部サービスを利用	0.9%	0.6%	1.2%	0.7%	2.4%	1.1%	3.3%	0.7%
その他・該当なし	54.5%	56.3%	53.4%	17.9%	44.8%	47.1%	43.4%	8.0%
合計人数	427人	176人	251人	435人	419人	174人	244人	448人

⑨高齢者や障害者、病人の介護・看護

選択肢	(1) 現在の担い手				(2) 理想の担い手			
	全体	男性	女性	H28	全体	男性	女性	H28
夫と妻で分担協力	13.8%	18.1%	10.8%	31.5%	37.3%	41.3%	34.3%	73.7%
主に妻	12.4%	8.5%	15.3%	33.6%	1.2%	1.2%	1.2%	2.8%
主に夫	1.6%	1.1%	2.0%	1.2%	0.5%	0.6%	0.4%	0.2%
夫と妻以外の家族	0.5%	0.0%	0.8%	0.9%	0.5%	0.0%	0.8%	0.4%
外部サービスを利用	2.6%	2.8%	2.4%	3.3%	7.6%	5.2%	9.3%	12.7%
その他・該当なし	69.0%	69.5%	68.7%	29.4%	53.0%	51.8%	54.0%	10.1%
合計人数	426人	177人	249人	428人	421人	172人	248人	457人

⑩地域活動（自治会、PTAなど）

選択肢	（１）現在の担い手				（２）理想の担い手			
	全体	男性	女性	H28	全体	男性	女性	H28
夫と妻で分担協力	24.9%	31.1%	20.4%	28.9%	61.2%	61.5%	60.9%	83.9%
主に妻	29.8%	21.5%	35.7%	47.6%	3.1%	4.6%	2.0%	4.2%
主に夫	11.1%	14.1%	9.0%	10.6%	1.7%	1.7%	1.6%	4.2%
夫と妻以外の家族	0.2%	1.1%	0.4%	0.6%	1.4%	0.6%	2.0%	0.6%
外部サービスを利用	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	2.1%	1.7%	2.4%	1.0%
その他・該当なし	33.5%	32.2%	34.5%	11.8%	30.5%	29.9%	31.0%	6.1%
合計人数	433人	177人	255人	498人	423人	174人	248人	477人

問7 家庭での子どもの教育やしつけについて、あなたの考えに最も近いものを項目ごとに1つずつ選んでください。（全員回答）

- ①では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した女性は80.6%で、男性の65.0%より15.6%高くなっています。
 ②では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した男性は43.6%で、女性の22.8%より20.8%高くなっています。
 ③では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が95.6%でした。
 ④では「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計が92.0%でした。

①職業や結婚などの人生設計に対する助言は男女で区別するべきである

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	6.8%	26.2%	9.9%	35.1%	4.5%	19.5%	10.0%	40.6%
どちらかといえばそう思う	19.4%		25.2%		15.0%		30.6%	
どちらかといえばそう思わない	29.8%	73.8%	26.0%	65.0%	33.3%	80.6%	30.9%	59.4%
そう思わない	44.0%		39.0%		47.3%		28.5%	
合計人数	885人		385人		493人		878人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	6.8%	10.2%	2.5%	6.4%	10.6%	4.4%	4.7%	9.4%
どちらかといえばそう思う	19.4%	18.4%	15.0%	18.2%	17.6%	24.4%	16.4%	22.4%
どちらかといえばそう思わない	29.8%	38.8%	28.8%	27.3%	41.5%	30.6%	28.1%	21.2%
そう思わない	44.0%	32.7%	53.8%	48.2%	30.3%	40.6%	50.9%	47.1%
		49人	80人	110人	142人	160人	171人	170人

【中学生以下の子どもの有無別】

選択肢	全体	中学生以下の子ども	
		いる	いない
そう思う	6.8%	5.5%	7.0%
どちらかといえばそう思う	19.4%	18.2%	19.6%
どちらかといえばそう思わない	29.8%	40.0%	28.5%
そう思わない	44.0%	36.4%	44.9%
合計人数		110人	769人

②男の子は男らしく強く、女の子は女らしく心優しく育てるべきである

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	7.9%	31.8%	13.5%	43.6%	3.6%	22.8%	16.3%	53.2%
どちらかといえばそう思う	23.9%		30.1%		19.2%		36.9%	
どちらかといえばそう思わない	29.4%	68.3%	26.0%	56.4%	32.3%	77.3%	27.9%	46.8%
そう思わない	38.9%		30.4%		45.0%		18.9%	
合計人数	888人		385人		496人		878人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	7.9%	6.1%	6.3%	6.4%	5.6%	3.1%	10.5%	13.9%
どちらかといえばそう思う	23.9%	12.2%	17.5%	16.4%	21.8%	27.5%	22.8%	34.1%
どちらかといえばそう思わない	29.4%	46.9%	22.5%	21.8%	32.4%	33.8%	33.3%	22.5%
そう思わない	38.9%	34.7%	53.8%	55.5%	40.1%	35.6%	33.3%	29.5%
		49人	80人	110人	142人	160人	171人	173人

【中学生以下の子どもの有無別】

選択肢	全体	中学生以下の子ども	
		いる	いない
そう思う	7.9%	7.3%	8.0%
どちらかといえばそう思う	23.9%	23.6%	23.7%
どちらかといえばそう思わない	29.4%	29.1%	29.7%
そう思わない	38.9%	40.0%	38.6%
合計人数		110人	772人

③食事の支度や洗濯など日常的な家事は男女を問わず身に付けさせるべきである

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	74.7%	95.6%	68.0%	94.1%	79.8%	97.0%	78.3%	98.2%
どちらかといえばそう思う	20.9%		26.1%		17.2%		19.9%	
どちらかといえばそう思わない	2.0%	4.4%	3.1%	5.9%	1.0%	3.0%	1.5%	1.8%
そう思わない	2.4%		2.8%		2.0%		0.3%	
合計人数	889人		387人		495人		883人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	74.7%	77.6%	88.8%	85.6%	75.4%	81.3%	67.4%	60.5%
どちらかといえばそう思う	20.9%	18.4%	10.0%	13.5%	22.5%	15.0%	26.7%	30.2%
どちらかといえばそう思わない	2.0%	4.1%	1.3%	0.9%	1.4%	0.6%	2.9%	3.5%
そう思わない	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	3.1%	2.9%	5.8%
		49人	80人	111人	142人	160人	172人	172人

③食事の支度や洗濯など日常的な家事は男女を問わず身に付けさせるべきである

【中学生以下の子どもの有無別】

選択肢	全体	中学生以下の子ども	
		いる	いない
そう思う	74.7%	80.9%	73.7%
どちらかといえばそう思う	20.9%	17.3%	21.5%
どちらかといえばそう思わない	2.0%	1.8%	2.1%
そう思わない	2.4%	0.0%	2.7%
合計人数	889人	110人	773人

④家庭での子どものしつけや教育は母親の責任で行うべきである

選択肢	全体		男性		女性		H28調査	
そう思う	1.6%	8.0%	1.6%	9.6%	1.6%	6.7%	0.7%	9.2%
どちらかといえばそう思う	6.4%		8.0%		5.1%		8.5%	
どちらかといえばそう思わない	27.1%	92.0%	28.5%	90.4%	26.5%	93.4%	31.7%	90.8%
そう思わない	64.9%		61.9%		66.9%		59.1%	
合計人数	888人		386人		495人		1,208人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	1.6%	6.1%	5.0%	1.8%	0.7%	0.0%	0.0%	2.3%
どちらかといえばそう思う	6.4%	4.1%	1.3%	4.5%	4.2%	6.3%	7.0%	11.7%
どちらかといえばそう思わない	27.1%	38.8%	31.3%	18.0%	32.4%	27.5%	25.6%	25.1%
そう思わない	64.9%	51.0%	62.5%	75.7%	62.7%	66.3%	67.4%	60.8%
		49人	80人	111人	142人	160人	172人	171人

【中学生の子どもの有無別】

選択肢	全体	中学生以下の子ども	
		いる	いない
そう思う	1.6%	1.8%	1.4%
どちらかといえばそう思う	6.4%	7.3%	6.2%
どちらかといえばそう思わない	27.1%	30.0%	26.8%
そう思わない	64.9%	60.9%	65.5%
合計人数		110人	772人

問8 あなたが介護・看護を受けるとしたら、主に誰に世話をしてほしいですか。1つ選んでください。

全体では前回調査同様「施設に入所する」と回答した人が最も多く、これに「配偶者」「在宅介護サービスを利用する」が続いています。

「配偶者（夫または妻）」と回答した男性は32.6%で、女性の21.2%より14.0%高くなっています。

「在宅介護サービスを利用する」と回答した女性は34.4%で、男性より12.8%高くなっています。

選択肢	全体	男性	女性	H28調査
配偶者（夫または妻）	24.5%	32.6%	18.6%	28.7%
実の娘	7.0%	2.9%	10.4%	7.3%
実の息子	1.0%	1.3%	0.8%	0.4%
息子の妻	0.1%	0.3%	1.0%	0.0%
娘の夫	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他の家族	1.1%	1.3%	0.0%	0.9%
在宅介護サービスを利用する	28.6%	21.6%	34.4%	25.3%
施設に入所する	34.7%	36.5%	32.7%	31.2%
その他	2.8%	3.6%	2.0%	6.2%
合計人数	880人	384人	489人	889人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・優しく面倒をみてくれるなら誰でもよい。

3 女性の活躍推進について

問9 女性の(1)現在の働き方(2)理想の働き方について、あなたの考えに最も近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

※女性はご自身について、男性は妻(事実婚を含む)の働き方についてお答えください。

※妻がいない男性は、(2)理想の働き方のみお答えください。

女性の現在の働き方、理想の働き方とも「(現在)働いている」「ずっと働く」とした回答が最も多くなっています。理想の働き方では「子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く」と回答した人も29.4%と多い傾向にあります。

【平成28年度調査・第5次プランの目標値との比較】

現在「働いている」を合計した回答は、前回調査の45.2%から増えましたが、第5次プランの目標値70%以上は達成できませんでした。

(1) 女性の現在の働き方(女性および妻がいる男性のみ回答)

【第5次男女共同参画プラン指標・数値目標対象 目標 70%】

選択肢	全体	男性	女性	H28調査
働いている(勤務条件等を変えない)	36.7%	29.7%	39.5%	45.2%
働いている(結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす)	14.4%	9.3%	16.4%	
結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める	9.1%	11.0%	8.3%	5.7%
子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める	9.5%	12.8%	8.1%	10.9%
子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働いていない	2.7%	5.2%	1.7%	29.9%
ずっと職業を持たず、家事に専念する	15.5%	23.8%	12.1%	2.4%
その他	12.2%	8.1%	13.8%	6.0%
合計人数	592人	172人	420人	635人

【働き方別】

選択肢	全体	正社員 正職員	契約 派遣社員	パート アルバイト	自営業	家事専業 無職	学生	その他
働いている(勤務条件等を変えない)	36.7%	59.7%	66.7%	44.0%	52.9%	3.4%	0.0%	33.3%
働いている(結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす)	14.4%	21.4%	4.8%	24.0%	5.9%	2.8%	35.0%	6.7%
結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める	9.1%	3.9%	9.5%	4.0%	2.9%	20.5%	5.0%	6.7%
子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める	9.5%	5.8%	9.5%	11.0%	2.9%	13.6%	5.0%	6.7%
子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働いていない	2.7%	1.0%	0.0%	2.0%	2.9%	5.7%	0.0%	3.3%
ずっと職業を持たず、家事に専念する	15.5%	5.8%	4.8%	3.0%	17.6%	36.4%	0.0%	20.0%
その他	12.2%	2.4%	4.8%	12.0%	14.7%	17.6%	55.0%	23.3%
合計人数	592人	206人	21人	100人	34人	176人	20人	30人

■「その他」への記入事項(特徴的なもの)

- ・子供がいないのでずっと働いている。
- ・出産を機に辞め、子どもが大きくなってから再びパートを始めた。
- ・現在学生である。

(2) 女性の理想の働き方 (全員回答)

選択肢	全体		男性	女性	H28調査
	割合		割合	割合	割合
ずっと働く(勤務条件等を変えない)	19.4%	52.6%	15.2%	22.4%	48.8%
ずっと働く(結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす)	33.2%		32.1%	34.3%	
結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める	2.6%		2.9%	2.5%	4.2%
子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める	4.7%		5.9%	3.9%	5.8%
子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く	29.4%		28.9%	29.8%	33.8%
ずっと職業を持たず、家事に専念する	1.6%		2.1%	1.2%	0.9%
その他	9.1%		12.8%	6.0%	6.5%
合計人数	868人		374人	487人	891人

【働き方別】

選択肢	全体	正社員 正職員	契約 派遣社員	パート アルバイト	自営業	家事専業 無職	学生	その他
ずっと働く(勤務条件等を変えない)	19.4%	25.3%	25.0%	21.6%	21.3%	8.4%	21.8%	22.4%
ずっと働く(結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす)	33.2%	37.7%	25.0%	29.9%	34.0%	31.5%	40.0%	22.4%
結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める	2.6%	1.0%	0.0%	2.2%	4.3%	5.0%	1.8%	3.4%
子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める	4.7%	2.7%	6.3%	4.5%	10.6%	5.0%	1.8%	10.3%
子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く	29.4%	22.6%	34.4%	34.3%	23.4%	36.1%	25.5%	27.6%
ずっと職業を持たず、家事に専念する	1.6%	0.7%	0.0%	0.0%	4.3%	3.4%	1.8%	1.7%
その他	9.1%	9.9%	9.4%	7.5%	2.1%	10.5%	7.3%	12.1%
合計人数	868人	292人	32人	134人	47人	238人	55人	58人

■「その他」への記入事項(特徴的なもの)

- ・個人個人の自由意思や、思い描く理想による。
- ・各家庭の置かれている環境による。
- ・本人の適性によって、選択すればよい

問10 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

「保育サービスの整備の充実」と回答した人が45.2%で前回同様最も多く、これに「育児・介護休業制度等の充実」が続いています。

(選択率)

選択肢	全体	男性	女性	H28
賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間の格差解消	41.5%	43.4%	40.0%	33.9%
育児・介護休業制度等の充実	46.3%	48.3%	44.7%	46.7%
フレックスタイム・在宅勤務など柔軟な勤務形態の導入	36.5%	34.8%	38.2%	33.7%
保育サービス（早朝・延長・休日・夜間・病後児・乳児保育等）の整備の充実	47.2%	49.9%	45.1%	49.4%
介護サービス・施設等の整備の充実	10.0%	7.5%	12.0%	15.7%
結婚・出産・育児・介護等のために退職した社員の再雇用制度の充実	26.4%	27.8%	25.6%	30.6%
女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力	36.5%	28.6%	41.1%	34.4%
女性自身の自覚、意欲・能力の向上	15.8%	18.4%	13.8%	16.8%
男性の意識の変化	23.5%	22.6%	24.2%	17.5%
その他	2.7%	2.6%	2.2%	3.7%
特にない	0.7%	0.5%	0.8%	1.4%
わからない	0.6%	0.5%	0.6%	1.0%
合計人数	884人	385人	492人	886人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・企業・役所・その他（教育関係）雇用する側の意識改革や意識改革ができる教育。
- ・社会意識の変化。
- ・男性の働き方を変える。ワークライフバランス。
- ・ジェンダーに関する教育

問11 政治、経済、地域社会において、重要な決定を行う話し合いの場に女性の割合を増やそうとする取り組みが進められています。次の①～④について、あなたの考えに最も近いもの項目ごとに1つ選んでください。

①国会議員や地方議会議員で、女性の割合がもっと高くなってほしい。

選択肢	全体		男性		女性	
そう思う	40.2%	83.2%	35.1%	79.9%	43.8%	85.8%
どちらかといえばそう思う	43.0%		44.8%		42.0%	
どちらかといえばそう思わない	11.6%	16.8%	12.8%	20.1%	10.8%	14.2%
そう思わない	5.2%		7.3%		3.4%	
合計人数	882人		382人		493人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	40.2%	24.5%	32.5%	36.6%	34.3%	33.3%	55.0%	46.5%
どちらかといえばそう思う	43.0%	51.0%	46.3%	38.4%	50.7%	47.2%	33.7%	41.8%
どちらかといえばそう思わない	11.6%	20.4%	17.5%	14.3%	7.9%	13.8%	8.3%	8.8%
そう思わない	5.2%	4.1%	3.8%	10.7%	7.1%	5.7%	3.0%	2.9%
		49人	80人	112人	140人	159人	169人	170人

②各官庁や県、市などの行政組織における意思決定をする役職で、女性の割合がもっと高くなってほしい。

選択肢	全体		男性		女性	
そう思う	40.5%	86.0%	33.5%	82.2%	45.6%	89.1%
どちらかといえばそう思う	45.5%		48.7%		43.5%	
どちらかといえばそう思わない	9.9%	13.9%	11.8%	17.8%	8.6%	10.9%
そう思わない	4.0%		6.0%		2.3%	
合計人数	876人		382人		487人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	40.5%	26.5%	35.0%	36.9%	35.7%	36.1%	53.6%	43.7%
どちらかといえばそう思う	45.5%	53.1%	47.5%	40.5%	50.0%	47.5%	39.9%	46.7%
どちらかといえばそう思わない	9.9%	16.3%	17.5%	12.6%	7.1%	12.7%	4.8%	7.8%
そう思わない	4.0%	4.1%	0.0%	9.9%	7.1%	3.8%	1.8%	1.8%
		49人	80人	111人	140人	158人	168人	167人

③民間企業における意思決定をする役職で、女性の割合がもっと高くなってほしい。

選択肢	全体		男性		女性	
そう思う	38.8%	87.1%	31.6%	84.2%	44.1%	89.3%
どちらかといえばそう思う	48.3%		52.6%		45.2%	
どちらかといえばそう思わない	9.4%	12.9%	10.3%	15.8%	8.8%	10.6%
そう思わない	3.5%		5.5%		1.8%	
合計人数	874人		380人		487人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	38.8%	30.6%	38.8%	39.6%	36.4%	31.6%	49.4%	38.2%
どちらかといえばそう思う	48.3%	55.1%	45.0%	41.1%	50.0%	53.8%	44.0%	50.3%
どちらかといえばそう思わない	9.4%	10.2%	16.3%	9.0%	7.1%	12.0%	5.4%	9.7%
そう思わない	3.5%	4.1%	0.0%	9.9%	6.4%	2.5%	1.2%	1.8%
		49人	80人	111人	140人	158人	168人	165人

④町内会・自治会や学校のPTAにおける意思決定をする役職で、女性の割合がもっと高くなってほしい。

選択肢	全体		男性		女性	
そう思う	26.7%	75.4%	27.8%	77.7%	25.6%	74.0%
どちらかといえばそう思う	48.7%		49.9%		48.4%	
どちらかといえばそう思わない	18.2%	24.4%	13.9%	22.3%	21.3%	26.0%
そう思わない	6.4%		8.4%		4.7%	
合計人数	876人		381人		488人	

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
そう思う	26.7%	20.4%	23.8%	22.5%	25.0%	24.1%	33.3%	29.3%
どちらかといえばそう思う	48.7%	51.0%	42.5%	43.2%	47.1%	50.0%	49.4%	54.5%
どちらかといえばそう思わない	18.2%	24.5%	27.5%	19.8%	17.1%	20.3%	14.9%	13.2%
そう思わない	6.4%	4.1%	6.3%	14.4%	10.7%	5.7%	2.4%	3.0%
		49人	80人	111人	140人	158人	168人	167人

4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問12 性別を問わず仕事と生活を両立できるようにする公的な取り組みとして、あなたが最も重要だと思うものを1つ選んでください。

「両立支援のための制度の強化」と回答した人が最も多く、「社会全体に対する意識づくり」と回答した人が続いています。

【平成28年度調査との比較】

前回平成28年度調査でも「出産や育児、介護等に関するサービスの充実」が最も多く回答されています。「社会全体に対する意識づくり」を回答した人は男女ともに多い傾向にあります。

選択肢	全体	男性	女性	H28
社会全体に対する意識づくり	27.1%	31.8%	23.3%	21.7%
職場における差別禁止のための制度の強化	6.6%	5.5%	7.5%	7.1%
両立支援のための制度の強化	30.1%	28.1%	31.5%	24.0%
企業、事業所に対する環境整備の働きかけ	9.9%	11.0%	9.2%	14.6%
出産や育児、介護等に関するサービスの充実	19.8%	15.7%	23.3%	24.6%
就職や復職、起業に対する支援	4.7%	5.2%	4.4%	5.2%
その他	1.8%	2.6%	0.8%	2.8%
合計人数	868人	381人	480人	879人

【働き方別】

選択肢	全体	正社員 正職員	契約 派遣社員	パート アルバイト	自営業	家事専門 無職	学生	その他
社会全体に対する意識づくり	27.1%	25.3%	35.3%	28.0%	29.2%	27.7%	21.8%	30.4%
職場における差別禁止のための制度の強化	6.6%	6.9%	2.9%	6.1%	12.5%	5.8%	3.6%	10.7%
両立支援のための制度の強化	30.1%	29.1%	26.5%	24.2%	31.3%	33.9%	38.2%	23.2%
企業、事業所に対する環境整備の働きかけ	9.9%	13.8%	14.7%	7.6%	8.3%	8.7%	1.8%	5.4%
出産や育児、介護等に関するサービスの充実	19.8%	18.7%	14.7%	25.8%	12.5%	18.2%	29.1%	19.6%
就職や復職、起業に対する支援	4.7%	4.2%	5.9%	6.8%	6.3%	3.7%	3.6%	7.1%
その他	1.8%	2.1%	0.0%	1.5%	0.0%	2.1%	1.8%	3.6%
合計人数		289人	34人	132人	48人	242人	55人	56人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・ 子供を育てることへの価値を高め、男女で共に育てることへの教育が必要
- ・ 公的な取り組みより、まず夫婦間での話し合い
- ・ 両立支援のための制度の確実な実行

問13 育児や介護を行うために、育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇を取ったことがありますか。項目ごとに1つずつ選んでください。

「①育児休業」は女性の取得率が高く、③介護休業④介護休暇はほぼ同じく、取得率が低い結果になっています。

①育児休業（原則として、1歳未満の子を養育するための休業）

選択肢	全体	男性	女性	H28
ある	6.3%	1.5%	10.2%	6.6%
ない	93.7%	98.5%	89.8%	93.4%
合計人数	775人	338人	430人	851人

②看護休暇（小学校就業前の子の看護のための休暇）

選択肢	全体	男性	女性	H28
ある	4.0%	3.2%	4.7%	4.1%
ない	96.0%	96.8%	95.3%	95.9%
合計人数	772人	339人	426人	847人

③介護休業（要介護状態にある家族を介護するための休業）

選択肢	全体	男性	女性	H28
ある	1.9%	2.3%	1.6%	1.9%
ない	98.1%	97.7%	98.4%	98.1%
合計人数	778人	341人	430人	851人

④介護休暇（要介護状態にある家族を短期に介護するための休暇）

選択肢	全体	男性	女性	H28
ある	3.2%	3.9%	2.8%	2.8%
ない	96.8%	96.1%	97.2%	97.2%
合計人数	771人	337人	427人	849人

最近10年以内に、育児休業を取得した期間をご記入ください。複数回取得された場合は、直近の取得期間についてご記入ください。（最近10年以内に育児休業を取得したことがある方のみ回答）

取得期間	全体	男性	女性
3か月未満	5.9%	100%	0.0%
3か月から6か月未満	0.0%	0.0%	0.0%
6か月から1年未満	11.8%	0.0%	12.5%
1年から1年6か月未満	41.2%	0.0%	43.8%
1年6か月から2年未満	17.6%	0.0%	18.8%
2年から3年未満	5.9%	0.0%	6.3%
3年以上	17.6%	0.0%	18.8%
合計人数	17人	1人	16人

5 男性の育児や介護の参画について

問14 男性が育児休業や介護休業などを取ることにについて、あなたの考えに最も近いものを、
①～④の項目ごとに1つずつ選んでください。

「積極的に取るべき」「どちらかと言えば取る方がよい」の合計は、「④介護休暇」が95.8%と前回同様最も高く、これに「②看護休暇」が続いています。

①育児休業

選択肢	全体		男性	女性	H28調査	
積極的に取るべき	55.2%	92.3%	52.0%	57.2%	35.4%	81.9%
どちらかといえば、取る方がよい	37.1%		39.0%	36.0%	46.5%	
どちらかといえば、取らない方がよい	6.8%	7.7%	8.1%	5.9%	15.1%	18.2%
取るべきではない	0.9%		0.8%	0.9%	3.1%	
合計人数	821人		356人	458人	882人	

②看護休暇

選択肢	全体		男性	女性	H28調査	
積極的に取るべき	52.4%	94.6%	53.5%	35.4%	40.2%	90.6%
どちらかといえば、取る方がよい	42.2%		40.6%	46.5%	50.4%	
どちらかといえば、取らない方がよい	4.9%	5.4%	5.3%	15.1%	8.4%	9.4%
取るべきではない	0.5%		0.6%	3.1%	1.0%	
合計人数	822人		357人	458人	881人	

③介護休業

選択肢	全体		男性	女性	H28調査	
積極的に取るべき	51.2%	92.5%	49.9%	51.6%	38.8%	86.0%
どちらかといえば、取る方がよい	41.3%		42.0%	41.1%	47.2%	
どちらかといえば、取らない方がよい	7.1%	7.6%	17.9%	6.6%	12.4%	14.1%
取るべきではない	0.5%		0.3%	0.7%	1.7%	
合計人数	819人		355人	457人	882人	

④介護休暇

選択肢	全体		男性	女性	H28調査	
積極的に取るべき	54.2%	95.8%	52.5%	55.0%	46.8%	91.6%
どちらかといえば、取る方がよい	41.6%		41.3%	42.2%	44.8%	
どちらかといえば、取らない方がよい	3.9%	4.3%	5.9%	2.4%	7.4%	8.4%
取るべきではない	0.4%		0.3%	0.4%	1.0%	
合計人数	823人		356人	460人	884人	

問15 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。その理由について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

「職場の理解を得られないから」と回答した人が最も多く、これに「休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから」が続いています。

【平成28年度調査との比較】

前回平成28年度調査でも「職場の理解を得られないから」と回答した人が最も多く30.5%でした。

選択肢	全体	男性	女性	H28調査
職場の理解を得られないから	39.6%	33.2%	45.0%	30.5%
職場の同僚に申し訳ないと思うから	8.7%	12.8%	5.6%	11.5%
昇進や昇給に影響する恐れがあるから	8.2%	8.2%	8.3%	9.1%
休業後の職場復帰に不安があるから	11.5%	11.2%	11.6%	12.1%
仕事の量が多いから	3.7%	5.6%	2.3%	4.0%
仕事の責任が重いから	6.8%	9.0%	5.2%	7.6%
休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから	14.5%	13.8%	14.9%	19.1%
女性の方が育児や介護に向いているから	2.9%	2.7%	3.1%	2.5%
その他	4.2%	3.5%	4.1%	3.7%
合計人数	867人	376人	484人	886人

【働き方別】

全体	全体	正社員 正職員	契約 派遣社員	パート アルバイト	自営業	家事専業 無職	学生	その他
職場の理解を得られないから	39.6%	37.2%	29.4%	45.2%	34.0%	42.1%	47.3%	38.6%
職場の同僚に申し訳ないと思うから	8.7%	10.1%	11.8%	4.4%	2.1%	10.4%	5.5%	12.3%
昇進や昇給に影響する恐れがあるから	8.2%	8.7%	5.9%	9.6%	12.8%	6.7%	10.9%	1.8%
休業後の職場復帰に不安があるから	11.5%	8.7%	20.6%	11.9%	17.0%	14.2%	7.3%	8.8%
仕事の量が多いから	3.7%	5.9%	5.9%	3.7%	19.1%	1.7%	20.0%	7.0%
仕事の責任が重いから	6.8%	8.0%	5.9%	4.4%	10.6%	5.4%	5.5%	10.5%
休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから	14.5%	14.9%	17.6%	14.8%	2.1%	10.8%	3.6%	15.8%
女性の方が育児や介護に向いているから	2.9%	1.0%	2.9%	2.2%	2.1%	5.4%	0.0%	1.8%
その他	4.2%	5.6%	0.0%	3.7%	0.0%	3.3%	0.0%	13.5%
合計人数		288人	34人	135人	47人	240人	55人	57人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・休業の可能性を踏まえた人材採用がなされていないから。
- ・女性は家庭、家族を見るものという意識や先入観が根強いから
- ・男性（夫）がまだ家事や育児に関して主体性を持っておらず、やりたがらないから
- ・育児休業や介護休業を取る考えや願望が元々ないから

問16 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくために、最も必要だと思うものを1つ選んでください。

「労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする」と回答した人が30.1%で最も多く、これに「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる」が続いています。

選択肢	全体	男性	女性	H28
職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる	21.6%	25.3%	18.7%	25.3%
労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする	30.1%	28.6%	31.5%	33.6%
男性自身の家庭生活や地域活動に参加することに対する抵抗感をなくす	10.3%	8.1%	12.1%	13.0%
社会の中で、男性が家庭生活や地域活動に参加することに対する評価を高める	12.1%	13.3%	11.3%	14.7%
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る	10.3%	11.5%	9.3%	9.7%
男性は積極的に参加する必要はない	0.2%	0.5%	0.0%	1.0%
早い時期（中学・高校）での教育	13.3%	10.4%	15.4%	選択肢無し
その他	22.0%	2.3%	1.6%	2.8%
合計人数	877人	384人	486人	887人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・当事者意識を持つこと。
- ・在宅勤務やリモートワークをコロナ禍以降も取り入れ、働き方の自由度をつくる。

6 性別に基づく人権侵害（DV、セクハラなど）について

問17 「人権が侵害されている」とあなたが感じるのはどのような場合ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

「レイプ」と回答した人が79.2%と最も多く、これに「夫や恋人からの暴力」「職場や学校、地域でのセクハラ」「痴漢」が続いています。

【平成28年度調査との比較】

前回平成28年度も同様に最も多く選択されたのが「レイプ」でした。選択率上位の項目はほぼ同じでした。全ての項目において、前回調査より選択率が高い結果となりました。

(選択率)

選択肢	全体	男性	女性	H28調査
買春・売春・援助交際	41.3%	34.6%	46.6%	33.4%
性風俗店	23.5%	16.4%	28.8%	22.1%
ストーカー行為	71.7%	68.0%	74.5%	46.9%
夫や恋人からの暴力	76.5%	68.8%	82.7%	57.4%
レイプ	79.2%	77.6%	80.2%	70.0%
痴漢	73.3%	70.1%	75.6%	62.0%
雑誌や広告のヌード写真	14.4%	10.4%	17.3%	10.6%
職場や学校、地域でのセクハラ	74.8%	69.8%	78.5%	59.2%
ミス・コンテスト	6.1%	6.3%	5.8%	4.0%
職場での男性との待遇の差	44.9%	39.3%	49.1%	42.8%
家事負担が女性にかたよっていること	33.0%	27.6%	37.4%	27.5%
「婦人」「未亡人」「女流」など女性にだけ用いられる言葉	17.7%	15.1%	19.4%	8.4%
スポーツ競技の性的画像	37.3%	31.8%	41.5%	選択肢無し
その他	3.8%	6.3%	1.7%	3.4%
合計人数	869人	384人	502人	876人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・本人が望まない、意図しない行為を強要されること。
- ・性別等に基づく人権侵害は、女性にだけ起こっているとする風潮。
- ・SNS等でのいわれなき言葉の暴力、誹謗中傷

問18 最近5年以内に、職場や学校、地域などで、①から⑧の行為をされてあなた自身が不快な思いをした、または家族や友人で不快な思いをした人を知っていますか。それぞれ1つずつ選んでください。

「ある」と回答した人は「⑥年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われた」が最も多く、これに「⑧性的な冗談や会話につきあわされた」「⑦異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた」が続いています。

①不必要に体を触られた

選択肢	全体	男性	女性	H28 全体	H28 男性	H28 女性
自分自身として ある	7.6%	2.7%	11.1%	14.9%	8.2%	19.9%
自分以外で 知っている	16.7%	12.9%	19.1%			
自分自身として ない	86.9%	90.6%	84.7%	85.1%	91.8%	80.1%
自分以外で 知らない	74.7%	79.1%	71.9%			
合計人数	858人	373人	477人	867人	365人	498人

②交際や性的関係を迫られた

選択肢	全体	男性	女性	H28 全体	H28 男性	H28 女性
自分自身として ある	5.0%	1.9%	7.6%	9.0%	6.3%	11.1%
自分以外で 知っている	10.7%	9.6%	11.6%			
自分自身として ない	89.7%	91.4%	88.4%	91.0%	93.7%	88.9%
自分以外で 知らない	80.7%	81.8%	80.0%			
合計人数	856人	374人	475人	866人	365人	497人

③交際や性的関係を拒否した人から不当な扱いや嫌がらせをされた

選択肢	全体	男性	女性	H28 全体	H28 男性	H28 女性
自分自身として ある	1.6%	0.5%	2.5%	6.5%	5.5%	7.2%
自分以外で 知っている	6.9%	6.2%	7.2%			
自分自身として ない	93.4%	92.5%	94.3%	93.5%	94.5%	92.8%
自分以外で 知らない	84.6%	85.8%	84.1%			
合計人数	853人	373人	473人	866人	365人	497人

④宴会でお酌やデュエットを強要された

選択肢	全体	男性	女性	H28 全体	H28 男性	H28 女性
自分自身として ある	7.5%	3.5%	10.4%	13.3%	10.2%	15.7%
自分以外で 知っている	13.6%	11.8%	14.6%			
自分自身として ない	87.1%	90.1%	85.2%	86.7%	89.8%	84.3%
自分以外で 知らない	77.9%	80.1%	14.6%			
合計人数	852人	372人	473人	865人	364人	497人

⑤性的なうわさを流された

選択肢	全体	男性	女性	H28 全体	H28 男性	H28 女性
自分自身として ある	3.6%	2.7%	4.2%	5.3%	5.8%	5.1%
自分以外で 知っている	9.7%	10.8%	8.7%			
自分自身として ない	91.3%	90.1%	92.6%	94.7%	94.2%	94.9%
自分以外で 知らない	81.8%	81.7%	82.2%			
合計人数	852 人	372 人	473 人	863 人	365 人	494 人

⑥年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われた

選択肢	全体	男性	女性	H28 全体	H28 男性	H28 女性
自分自身として ある	20.6%	15.0%	24.6%	30.9%	22.5%	37.1%
自分以外で 知っている	26.6%	23.3%	29.0%			
自分自身として ない	74.4%	78.0%	72.1%	69.1%	77.5%	62.9%
自分以外で 知らない	64.8%	69.2%	61.8%			
合計人数	856 人	373 人	476 人	866 人	364 人	498 人

⑦異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた

選択肢	全体	男性	女性	H28 全体	H28 男性	H28 女性
自分自身として ある	13.7%	9.4%	17.2%	19.5%	13.5%	24.0%
自分以外で 知っている	18.1%	13.7%	21.4%			
自分自身として ない	81.9%	84.2%	80.3%	80.5%	86.5%	76.0%
自分以外で 知らない	73.2%	78.3%	69.5%			
合計人数	852 人	373 人	472 人	863 人	363 人	496 人

⑧性的な冗談や会話につきあわされた

選択肢	全体	男性	女性	H28 全体	H28 男性	H28 女性
自分自身として ある	16.4%	15.0%	17.3%	21.5%	17.0%	24.9%
自分以外で 知っている	20.0%	18.8%	20.9%			
自分自身として ない	79.3%	79.4%	79.5%	78.5%	83.0%	75.1%
自分以外で 知らない	71.0%	72.4%	70.0%			
合計人数	854 人	373 人	474 人	867 人	365 人	498 人

問19 セクハラをなくすためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。あなたが最も重要だと思うものを1つ選んでください。

前回同様「セクハラは人権侵害だという社会意識づくり」と回答した人が48.6%で最も多く、これに「セクハラを禁止する法律や条例などの強化」が続いています。

選択肢	全体	男性	女性	H28調査
公的機関の相談や指導の強化	7.9%	9.1%	7.0%	10.1%
民間ボランティア団体等のチェックや相談	1.5%	2.1%	1.0%	1.5%
事業所内でのチェックや相談	8.6%	7.6%	9.5%	12.1%
セクハラを禁止する法律や条例などの強化	30.3%	27.6%	32.5%	23.7%
セクハラは人権侵害だという社会意識づくり	48.6%	48.7%	48.4%	47.3%
その他	3.1%	4.9%	1.4%	5.3%
合計人数	874人	384人	483人	879人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・早い時期からの学校教育。
- ・罰則の強化
- ・セクハラの内容を理解する

問20 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力は、一般社会における暴力と同様の加害行為であると思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

「そう思う」「どちらかというそう」を合計した回答が94.2%となっており、前回と比較して微増しています。

選択肢	全体		男性	女性	H28調査	
そう思う	79.3%	94.2%	75.4%	82.6%	76.5%	92.7%
どちらかといえばそう思う	14.9%		18.4%	12.1%	16.2%	
どちらかといえばそう思わない	2.6%	5.8%	2.8%	2.5%	4.6%	7.3%
そう思わない	3.2%		3.4%	2.9%	2.7%	
合計人数	883人		386人	489人	891人	

問2 1 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力（DV）について、相談できる機関としてあなたが知っているものをすべて選んでください。

「警察」と回答した人が84.8%で最も多く、これに「市役所」が続いています。

【平成28年度調査との比較】

「市役所」との回答は前回平成28年度調査から全体微減していますが、女性の認知度は微増しています。

【第5次男女共同参画プラン指標・数値目標対象 目標 100%】

選択肢	全体	男性	女性	H28全体	H28男性	H28女性
警察	84.8%	84.0%	85.5%	81.5%	86.1%	78.3%
市役所	35.4%	33.5%	36.7%	37.2%	41.4%	34.1%
配偶者暴力相談支援センター	19.7%	18.3%	21.1%	16.0%	16.3%	15.9%
かながわ男女共同参画センター	7.4%	8.0%	7.0%	6.1%	7.2%	5.3%
民間支援団体	20.2%	18.6%	21.5%	20.5%	21.1%	20.2%
法務局（人権擁護委員）	6.4%	9.3%	4.1%	6.5%	9.4%	4.3%
相談できる機関を知らない	※10.3%	10.3%	10.5%	18.1%	13.6%	21.3%
合計人数	884人	388人	488人	888人	374人	511人

※100%－10.3%＝89.7%

問 2 2 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力（DV）に対する対策や支援として特に重要だと思う取り組みはなんだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」と回答した人が53.9%で最も多く、これに「家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発」「加害者に対する厳正な対処」が続いています。

(選択率)

選択肢	全体	男性	女性	H 2 8
家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発	52.0%	55.2%	49.4%	47.1%
いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備	53.9%	51.3%	56.0%	51.5%
緊急時の相談体制の充実	29.6%	32.7%	27.1%	30.6%
住居や就労斡旋、経済的援助など、生活支援の充実	27.2%	20.7%	31.7%	25.4%
カウンセリングや日常的な相談など、精神的援助の充実	21.6%	20.4%	22.7%	22.8%
関係機関やスタッフの充実	6.4%	7.9%	5.4%	7.9%
関係機関や紹介や暴力への対応方法など、さまざまな情報の提供	13.6%	14.1%	13.3%	19.7%
離婚調停への支援など、法的なサポートの充実	14.6%	14.1%	15.0%	11.5%
加害者に対する厳正な対処	41.9%	44.8%	39.8%	43.8%
カウンセリングなど、加害者の更生に関する対策の充実	10.7%	8.9%	11.9%	10.8%
裁判所、病院、住居探し等への同行支援	11.0%	9.2%	12.5%	8.8%
その他	1.5%	2.6%	0.6%	2.3%
わからない	1.6%	1.0%	2.1%	2.1%
合計人数	869 人	382 人	480 人	885 人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・法的に加害者を拘束する。
- ・関係機関の権限強化、法律・条例の整備（柔軟性）
- ・厳罰化

7 性的マイノリティについて

問23 次の(1)～(4)に掲げる言葉を知っていますか。それぞれ1つ選んでください。

性的マイノリティという言葉の認知度は増加しています。LGBTと共に高い認知度があります。
 (前回は「性的マイノリティ(またはLGBT)という言葉を知っていますか?」という設問でした)
 SOG Iの言葉の認知度は低い傾向にあります。

(1) 性的マイノリティ【第5次男女共同参画プラン指標・数値目標対象 目標 100%】

選択肢	全体	男性	女性	H28
言葉の意味も含めて知っていた	56.9%	54.0%	58.6%	65.8%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	31.4%	35.4%	28.6%	
聞いたこともないし意味も知らなかった	11.8%	10.6%	12.8%	34.2%
合計人数	893人	387人	493人	882人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
言葉の意味も含めて知っていた	56.9%	36.7%	56.3%	62.8%	59.2%	68.1%	59.1%	43.8%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	31.4%	40.8%	31.3%	29.2%	32.4%	22.5%	32.2%	37.3%
聞いたこともないし意味も知らなかった	11.8%	22.4%	12.5%	8.0%	8.5%	9.4%	8.8%	18.9%
		49人	80人	113人	142人	160人	171人	169人

(2) LGBT【第5次男女共同参画プラン指標・数値目標対象 目標 100%】

選択肢	全体	男性	女性
言葉の意味も含めて知っていた	62.2%	60.1%	63.7%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	23.0%	26.0%	20.8%
聞いたこともないし意味も知らなかった	14.8%	13.9%	15.5%
合計人数	892人	388人	491人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
言葉の意味も含めて知っていた	62.2%	73.5%	77.5%	77.9%	69.0%	66.7%	55.6%	38.5%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	23.0%	20.4%	12.5%	15.0%	21.1%	19.5%	30.4%	31.4%
聞いたこともないし意味も知らなかった	14.8%	6.1%	10.0%	7.1%	9.9%	13.8%	14.0%	30.2%
		49人	80人	113人	142人	159人	171人	169人

(3) SOGI

選択肢	全体		男性	女性
言葉の意味も含めて知っていた	7.2%	29.9%	8.0%	6.3%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	22.7%		23.1%	22.2%
聞いたこともないし意味も知らなかった	70.1%	70.1%	68.9%	71.4%
合計人数	889人		386人	490人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
言葉の意味も含めて知っていた	7.2%	2.0%	8.8%	8.8%	9.2%	8.8%	8.3%	2.4%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	22.7%	24.5%	16.3%	20.4%	23.9%	21.3%	26.2%	23.2%
聞いたこともないし意味も知らなかった	70.1%	73.5%	75.0%	70.8%	66.9%	70.0%	65.5%	74.4%
		49人	80人	113人	142人	160人	168人	168人

(4) パートナーシップ制度（およびそれらに類するもの）

選択肢	全体		男性	女性
言葉の意味も含めて知っていた	38.1%	79.0%	32.4%	42.7%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	40.9%		44.3%	38.2%
聞いたこともないし意味も知らなかった	20.9%	20.9%	23.3%	19.2%
合計人数	889人		386人	490人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
言葉の意味も含めて知っていた	38.1%	30.6%	41.3%	53.1%	45.1%	41.9%	32.0%	25.7%
聞いたことはあるが意味までは知らなかった	40.9%	34.7%	38.8%	31.9%	36.6%	43.1%	45.0%	46.7%
聞いたこともないし意味も知らなかった	20.9%	34.7%	20.0%	15.0%	18.3%	15.0%	23.1%	27.5%
		49人	80人	113人	142人	160人	169人	167人

問24 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。

また、友人・知人等から、同様の相談を受けたことがありますか。それぞれ1つ選んでください。

「はい（悩んだことがある）」とした回答した人が前回と比較して増加しています。

選択肢	全体	男性	女性	H28 調査
自分自身 悩んだことがある	6.5%	5.8%	7.0%	3.1%
自分自身 悩んだことはない	93.5%	94.2%	93.0%	96.9%
自分以外 相談を受けたことがある	10.9%	7.4%	13.5%	選択肢無し
自分以外 相談を受けたことがない	89.1%	92.6%	86.5%	選択肢無し
合計人数	876人	380人	490人	884人

問25 現在、性的マイノリティ（またはLGBT）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合計した回答が85.2%と前回と比較して高くなっています。

選択肢	全体	男性	女性	H28
そう思う	37.3%	33.3%	40.2%	30.0%
どちらかといえばそう思う	47.9%	47.2%	48.7%	47.5%
どちらかといえばそう思わない	11.2%	13.6%	9.3%	14.9%
そう思わない	3.6%	15.8%	1.9%	7.5%
合計人数	873人	381人	485人	877人

問26 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々も生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。あてはまるものを2つまで選んでください。

「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」が最も多くなり、「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」が続いています。前回最も多かった「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」とした回答した人も今回も多い割合にあります。

(選択率)

選択肢	全体	男性	女性	H28
行政が市民等への周知啓発を行う	17.4%	22.3%	14.0%	18.3%
相談窓口等を充実させ、その存在を周知する	21.5%	26.1%	18.1%	21.8%
生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う	35.1%	25.3%	42.7%	35.2%
法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する	33.9%	33.9%	34.1%	37.4%
当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う	11.3%	11.0%	11.3%	12.3%
働きやすい職場環境づくりの取り組みをする	34.6%	29.3%	38.8%	31.4%
わからない	13.2%	15.1%	11.9%	13.7%
その他	5.4%	6.2%	4.3%	5.3%
合計人数	866人	372人	410人	※673人

※H28調査は、問25で「1 そう思う」「2 どちらかと言えばそう思う」と回答した場合のみ問26に回答

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・幼いころからの教育。学校教育の場での啓発
- ・自然と認識され数十年以内に当たり前になっていると思う。

問27 あなたの身の回りに性的マイノリティの方はいますか？（複数回答可）

選択肢	全体	男性	女性
家族や親族にいる	1.3%	0.3%	2.0%
友人や知人にいる	15.6%	11.7%	18.6%
学校や職場にいる	4.6%	4.5%	4.5%
街などで見かけたことがある	23.3%	18.6%	27.0%
周囲にはいない（知らない）	60.7%	69.0%	54.6%
その他	1.7%	1.9%	1.2%
合計人数	873人	377人	489人

問28 身の回りに性的マイノリティの方がいたらどう思うかあなたの考えに近いものを1つ選んでください。

選択肢	全体	男性	女性
もし困っていたらサポートしたいと思う	36.0%	23.7%	45.7%
特になんとも思わない	55.0%	62.5%	48.8%
なんとなく嫌だ	7.7%	11.3%	4.9%
嫌だ	1.4%	2.4%	0.6%
合計人数	873人	379人	488人

8 男女共同参画推進のために必要な取り組みについて

問29 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを①から④の項目ごとに選んでください。

①個人で心掛けること（1つ）

選択肢	全体	男性	女性	H28調査
「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する	36.5%	30.8%	40.7%	30.3%
男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める	19.2%	21.0%	17.9%	23.8%
性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける	14.5%	15.9%	13.3%	11.1%
男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ	28.9%	30.2%	28.1%	32.9%
その他	0.9%	2.1%	0.0%	1.9%
合計人数	871人	377人	487人	857人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する	36.5%	63.3%	57.5%	38.4%	33.1%	36.1%	29.5%	27.4%
男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める	19.2%	4.1%	10.0%	21.4%	20.4%	17.4%	23.5%	22.6%
性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける	14.5%	12.2%	16.3%	15.2%	16.9%	14.8%	15.7%	10.4%
男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ	28.9%	18.4%	15.0%	24.1%	28.2%	31.0%	30.7%	39.0%
その他	0.9%	2.0%	1.3%	0.9%	1.4%	0.6%	0.6%	0.6%
		48人	79人	111人	142人	154人	166人	164人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・男性と女性それぞれの特性を正しく理解する。お互いありのままを尊重する。
- ・性別を問わず一人の人間として全ての人を尊重する意識を持つ。
- ・男女が協力し合う気持ちと環境づくり

②家庭での取り組み（1つ）

選択肢	全体	男性	女性	H28調査
夫婦の関係が対等であるように努力する	25.9%	31.9%	21.5%	25.1%
家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する	45.5%	44.7%	46.6%	45.5%
家事や育児の重要性を正當に評価する	10.2%	11.2%	9.4%	14.1%
「嫁・姑」「後継ぎ」「墓」「氏」など、家系を中心にした家族観や慣習を改める	7.9%	4.5%	10.6%	7.3%
子育てにおいて、性別によって教育やしつけの方針、態度を区別しない	7.8%	4.3%	10.2%	4.9%
その他	2.6%	3.5%	1.6%	3.1%
合計人数	872人	376人	489人	850人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
夫婦の関係が対等であるように努力する	25.9%	34.7%	16.3%	19.6%	26.2%	28.4%	26.3%	29.1%
家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する	45.5%	51.0%	57.5%	49.1%	52.5%	38.1%	40.7%	41.8%
家事や育児の重要性を正當に評価する	10.2%	8.2%	10.0%	9.8%	6.4%	11.6%	12.0%	11.5%
「嫁・姑」「後継ぎ」「墓」「氏」など、家系を中心にした家族観や慣習を改める	7.9%	0.0%	6.3%	9.8%	3.5%	9.0%	12.0%	8.5%
子育てにおいて、性別によって教育やしつけの方針、態度を区別しない	7.8%	4.1%	10.0%	9.8%	9.2%	6.5%	7.8%	6.1%
その他	2.6%	2.0%	0.0%	1.8%	2.1%	6.5%	1.2%	3.0%
		48人	79人	111人	141人	154人	167人	165人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・夫と妻が話し合って、それぞれの得意分野を生かし、協力しあう。
- ・夫婦間のコミュニケーション、相談、話し合い。
- ・それぞれできる事をする。特技をいかす

③社会全体での取り組み（1つ）

選択肢	全体	男性	女性	H28調査
性別を理由にした差別的待遇を禁止・撤廃する法律を強化する	23.5%	25.3%	21.9%	14.5%
性別に関わらず自分の人生を決められるよう、偏見や先入観を排除する	45.1%	41.2%	48.6%	47.2%
テレビや新聞、雑誌などで性別による固定的な役割分担に基づいた男女の扱いをしない	9.5%	9.5%	9.2%	9.9%
性的な興味の対象として、人を扱わない	3.7%	3.2%	4.1%	3.9%
社会活動や政治に、女性がより参画できるような仕組みを作る	9.3%	9.8%	8.8%	11.6%
社会活動や政治に女性を積極的に登用し、発言力を高める	6.8%	6.9%	6.8%	9.3%
その他	2.3%	4.2%	0.6%	3.5%
合計人数	874人	379人	488人	847人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
性別を理由にした差別的待遇を禁止・撤廃する法律を強化する	23.5%	24.5%	30.0%	24.1%	26.8%	21.2%	22.2%	20.0%
性別に関わらず自分の人生を決められるよう、偏見や先入観を排除する	45.1%	44.9%	45.0%	46.4%	52.1%	48.1%	40.1%	41.2%
テレビや新聞、雑誌などで性別による固定的な役割分担に基づいた男女の扱いをしない	9.5%	20.4%	16.3%	8.9%	6.3%	6.4%	11.4%	6.7%
性的な興味の対象として、人を扱わない	3.7%	2.0%	1.3%	3.6%	3.5%	5.8%	5.4%	1.8%
社会活動や政治に、女性がより参画できるような仕組みを作る	9.3%	8.2%	3.8%	6.3%	3.5%	9.6%	12.0%	15.8%
社会活動や政治に女性を積極的に登用し、発言力を高める	6.8%	0.0%	2.5%	5.4%	6.3%	5.8%	7.8%	12.1%
その他	2.3%	0.0%	1.3%	5.4%	1.4%	3.2%	1.2%	2.4%
		48人	79人	111人	142人	155人	167人	165人

■「その他」への記入事項（特徴的なもの）

- ・教育（親・子も含め）学校で早いうちから教える。
- ・学校教育などによる、個人個人の意識の向上。
- ・男女問わず自分らしく生き、でも互いに対等な存在として評価し尊重する意識を持つことを忘れない。

④横須賀市における取り組み（２つ）（選択率）

選択肢	全体	男性	女性	H 2 8 調査
学校教育における男女共同参画教育を進める	33.8%	33.7%	34.2%	21.9%
男女共同参画の意識を高めるための情報提供(冊子など)や学習の場(講座など)を充実する	11.8%	14.0%	10.0%	9.0%
事業所に対して職場における男女格差の是正を働きかける	11.8%	12.1%	11.7%	11.4%
事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける	30.7%	27.8%	33.3%	37.5%
多様な保育サービスを充実する	18.1%	18.3%	18.1%	21.3%
介護施設、介護サービスを充実する	18.2%	16.4%	19.6%	26.2%
女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する	4.1%	4.3%	4.0%	3.7%
ひとり親世帯の生活を安定させるための支援を充実する	14.3%	14.6%	14.4%	7.7%
男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する	7.5%	8.4%	6.7%	9.8%
夫婦がともに参加できる家事・育児や介護に関する学習の場(講座など)を充実する	5.5%	4.0%	6.3%	5.3%
市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する	4.5%	5.4%	3.8%	5.3%
市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める	3.5%	3.0%	4.0%	2.0%
市役所が率先して模範となることで、男女共同参画の職場づくりを働きかける	9.9%	13.2%	7.5%	10.3%
女性の能力・技術を高め、チャレンジをうながすための支援を充実する	7.2%	4.3%	9.2%	8.0%
性別に関する人権侵害をチェックし、是正するための制度を充実する	5.1%	5.1%	4.8%	4.5%
男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する	3.8%	3.8%	4.0%	4.0%
その他	2.2%	3.2%	1.0%	3.5%
合計人数	858人	371人	480人	848人

【年齢別】

選択肢	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
学校教育における男女共同参画教育を進める	33.8%	37.0%	37.3%	27.5%	35.4%	39.0%	36.9%	33.5%
男女共同参画の意識を高めるための情報提供(冊子など)や学習の場(講座など)を充実する	11.8%	13.0%	12.0%	4.7%	11.1%	22.2%	11.3%	12.3%
事業所に対して職場における男女格差の是正を働きかける	11.8%	21.7%	9.3%	9.5%	13.3%	9.1%	17.5%	9.7%
事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける	30.7%	23.9%	36.0%	39.8%	42.1%	25.1%	30.0%	27.1%
多様な保育サービスを充実する	18.1%	13.0%	36.0%	33.2%	21.4%	18.8%	12.5%	7.1%
介護施設、介護サービスを充実する	18.2%	15.2%	4.0%	18.0%	14.8%	20.9%	18.8%	29.7%
女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する	4.1%	8.7%	5.3%	3.8%	2.2%	3.5%	5.6%	3.9%
ひとり親世帯の生活を安定させるための支援を充実する	14.3%	19.6%	16.0%	18.0%	11.8%	13.9%	15.6%	14.2%
男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する	7.5%	4.3%	5.3%	4.7%	10.3%	5.6%	7.5%	11.6%
夫婦がともに参加できる家事・育児や介護に関する学習の場(講座など)を充実する	5.5%	8.7%	8.0%	8.5%	5.2%	4.9%	4.4%	3.9%
市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する	4.5%	0.0%	2.7%	4.7%	5.2%	4.9%	4.4%	6.5%
市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める	3.5%	2.2%	2.7%	3.8%	2.2%	4.2%	5.6%	3.2%
市役所が率先して模範となることで、男女共同参画の職場づくりを働きかける	9.9%	2.2%	8.0%	4.7%	7.4%	10.5%	12.5%	18.1%
女性の能力・技術を高め、チャレンジをうながすための支援を充実する	7.2%	4.3%	9.3%	8.5%	7.4%	7.0%	5.6%	9.0%
性別に関する人権侵害をチェックし、是正するための制度を充実する	5.1%	10.9%	2.7%	2.8%	1.5%	4.9%	4.4%	5.8%
男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する	3.8%	0.0%	2.6%	1.8%	4.4%	4.2%	1.2%	1.2%
その他	2.2%	2.2%	1.3%	3.8%	13.0%	2.8%	1.9%	1.3%
		48人	77人	109人	141人	151人	164人	161人

問30 男女共同参画社会を実現していくために、あなたはどんなことができると思いますか。

→51ページ以降をご覧ください。

9 新型コロナウイルス禍における影響について

問3 1 コロナ禍前と現在とを比較し、新型コロナウイルスの影響によりあなたやあなたのまわりでどのような変化が起きましたか。「好ましい変化があったもの」「好ましくない変化があったもの」「変化がなかったもの」をそれぞれ次の選択肢から1つ選び、また、最も変化があったものの番号をそれぞれお書きください。

①自分や家族の働き方について（雇用形態、就業時間、在宅勤務、仕事内容の変化など）

選択肢	全体	男性	女性
好ましい変化があった	17.0%	18.7%	15.8%
好ましくない変化があった	29.0%	27.0%	30.4%
変化はなかった	54.0%	54.3%	53.9%
合計人数	793人	348人	438人

②自分の生活や行動面について（家事、育児、学習、趣味など）

選択肢	全体	男性	女性
好ましい変化があった	13.2%	12.6%	13.4%
好ましくない変化があった	49.4%	47.9%	50.8%
変化はなかった	37.4%	39.5%	35.8%
合計人数	795人	349人	439人

③配偶者・パートナーとの関係について

選択肢	全体	男性	女性
好ましい変化があった	8.6%	7.5%	9.4%
好ましくない変化があった	10.5%	9.4%	11.1%
変化はなかった	80.9%	83.1%	79.5%
合計人数	743人	320人	415人

④家族（配偶者・パートナーを除く）との関係について

選択肢	全体	男性	女性
好ましい変化があった	10.0%	8.6%	11.0%
好ましくない変化があった	20.7%	20.2%	20.9%
変化はなかった	69.3%	71.1%	68.0%
合計人数	779人	336人	435人

⑤友人・知人との交友関係について

選択肢	全体	男性	女性
好ましい変化があった	7.1%	6.6%	7.5%
好ましくない変化があった	43.3%	30.9%	46.4%
変化はなかった	49.6%	54.4%	46.2%
合計人数	800人	351人	442人

⑥職場環境や学校活動について

選択肢	全体	男性	女性
好ましい変化があった	9.9%	11.7%	8.3%
好ましくない変化があった	38.9%	36.7%	40.2%
変化はなかった	51.3%	51.5%	51.4%
合計人数	759人	332人	420人

⑦自分自身や世帯（家族）の収入、経済面について

選択肢	全体	男性	女性
好ましい変化があった	4.2%	3.2%	4.8%
好ましくない変化があった	31.0%	29.1%	32.2%
変化はなかった	64.8%	67.7%	63.0%
合計人数	793人	344人	441人

⑧自分自身や家族の健康面について

選択肢	全体	男性	女性
好ましい変化があった	6.0%	6.8%	5.4%
好ましくない変化があった	23.2%	20.2%	25.1%
変化はなかった	70.8%	72.9%	69.5%
合計人数	801人	351人	442人

最も好ましい変化があったもの

選択肢	全体	男性	女性
①自分や家族の働き方について	41.1%	45.3%	38.1%
②自分の生活や行動面について（家事、育児、学習、趣味など）	17.9%	15.1%	20.1%
③配偶者・パートナーとの関係について	8.5%	9.4%	7.9%
④家族（配偶者・パートナーを除く）との関係について	8.9%	7.5%	10.1%
⑤友人・知人との交友関係について	7.3%	3.8%	10.1%
⑥職場環境や学校活動について	3.7%	3.8%	3.6%
⑦自分自身や世帯（家族）の収入、経済面について	5.7%	5.7%	5.0%
⑧自分自身や家族の健康面について	6.9%	9.4%	5.0%
合計人数	246人	106人	139人

最も好ましくない変化があったもの

選択肢	全体	男性	女性
①自分や家族の働き方について	6.4%	7.0%	5.8%
②自分の生活や行動面について（家事、育児、学習、趣味など）	31.7%	33.9%	30.5%
③配偶者・パートナーとの関係について	2.3%	1.7%	2.7%
④家族（配偶者・パートナーを除く）との関係について	4.1%	3.9%	4.3%
⑤友人・知人との交友関係について	17.3%	18.7%	16.5%
⑥職場環境や学校活動について	10.9%	9.1%	11.9%
⑦自分自身や世帯（家族）の収入、経済面について	18.1%	18.3%	18.0%
⑧自分自身や家族の健康面について	9.3%	7.4%	10.4%
合計人数	562人	230人	328人

問30 男女共同参画社会を実現していくために、あなたはどんなことができますか。

自由意見に記入があった回答者は245人で全体の27.0%でした。

「社会や個人の意識・環境（法整備含む）の変化が必要」に関する意見が一番多くなっています。

（1）性別によって差異がある、または役割が違うから疑問を感じる

＜特徴的な意見＞

- ・男女平等というのはとてつもなく難しいと思っています。私は女性が出たいのであればどんどん出てきていいと思っていますが、仕事によっては、出来る事、出来ない事があるのでは。どこまで平等にするのか、男性と同等に扱おうと仕事が続かないや、すぐやめる人などありそうですが、人が自由にやればいいと思います。
- ・女性には女性の得意とするもの（男性も同様）があるので、全部が台頭でなければいけないとは思いません。
- ・自分が出来ることから始める。女性は子どもを産むので男女の役割が違ってしまおうと思います。

（2）男女差を活かした推進

＜特徴的な意見＞

- ・男は男らしく、女は女らしくという風な教育を受けてきました。また自分の子供たちにもそういう教育をしてきました。男女共同参画社会の実現を目指すという意義は理解しますが、それが男らしさの否定、女らしさの否定にならない事を願います。
- ・1人の人間として、権利は平等であるべきですが、身体的には異質なので、どうしてもなにもかもが同じという訳にはいかないと思います。その為、労働時間の限界も違うと思います。ただ、男女平等というのではなく、能力のある女性が女だからと上に立てない事が問題なのです。力のある、能力のある方が自分の力を発揮できる社会を作りたいです。

（3）男女共同参画は積極的に推進

＜特徴的な意見＞

- ・男女共同参画社会の推進を目的とした市民活動への積極的参加
- ・消防団活動などで女性に積極的に参画していただき、一緒にボランティア活動を行い、男女共に市民のために役立つ活動を行いたい。また、その活動が新たな女性消防団員の入団に繋げたい。
- ・社会が環境を整えても、本人が立つ意思がなければ無題になるので、男女問わず活動していくように背中を押していく。

（4）必要性は理解するが、推進は難しい

＜特徴的な意見＞

- ・学校生活の段階から男女の扱いが均等ではないため、授業で取り扱っても教科書の中のフィクションにすぎず、生徒にとっては覚えなければいけない事でしかないため意識下に身につけません。具体例を上げると、プールの授業で着替えるときに、女子は教室なのに男子は廊下で見られ放題。放課後の掃除のときに、男子はふざけるからという先入観でトイレなどの汚れ仕事、女子は書類をシュレッダーにかけるだけの軽作業など、日常の些細な生活から不均等が生じているため無意識のうちに対立を生み男女の先入観を植え付けています。日常の生活習慣を変えていかないと、無意識に根付いてしまっている概念は知識としての教育だけでは説得力に欠けるため男女共同参画社会の促進を遅らせ上辺だけのものになると思います。
- ・この二つのテーマは無くならないと思うが、活動は続けるべきと思う。

(5) 教育や周知

<特徴的な意見>

- ・意識付けを小学校くらいから行う。
- ・「女性だから」「男性だから」「～らしく」という考え方をなくす。学校教育に取り入れる。
- ・今の大人に差別意識があるので、今の子ども達に教育が必要だと思う。今すぐは無理だと思う。差別をなくしたいと思うなら、法の制定が必要。簡単な事ではない。小さな力が大きな力になることを信じて頑張ってください。
- ・私も含めて、年齢的に上の方々が固定概念が強いと思うので、始めに高齢者の皆さんに認識してもらえそうな取り組みをしたらどうでしょうか。

(6) 社会や個人の意識・環境（法整備含む）の変化が必要

<特徴的な意見>

- ・男女関係なく、偏見や先入観を持たないようにする。
- ・政府、市、民間、地域社会とあらゆる場面で男女共同参画社会の位置づけを確立していく必要がある。
- ・地域における活動で、もっと参加しやすいような環境づくりをと日頃からの話しかけや相談に真摯に取り組んでいます。
- ・自分自身が男女平等の考えをもって行動する。

(7) 女性自身（意識など）の改善

<特徴的な意見>

- ・女性の1人として職場で自発的に取り組み一職員として働いているという意識を持つ。働きながら今後出産や育児をする予定なので、居住区のサービスや施設は積極的に知り、利用していきたいと思う。
- ・私も一人の女性として社会で活躍できるように努める。

(8) すでに男女平等か、それ以上である

<特徴的な意見>

- ・昔に比べれば男女共同参画は進んでいると思いますが、それを逆手にとって女性が優位になっている場面（例えば電車などの女性専用車両）も増えていく気がします。なので私はこの件に関して何もしないのが自然でいいと思っています。
- ・男女格差は現代社会において、それほどないと思われる。女性が男性社会だった分野に進出しており、これ以上女性が増えたら社会的男女比率で女性の方が増えていく可能性が考えられる。

(9) 家庭内や地域活動の役割分担について

<特徴的な意見>

- ・家事育児の夫への振り分け（分担）
- ・家事に積極的に関わり、作業を分担する。町内会活動においても、女性の参加を働きかける。
- ・まずは家庭内で、そして地域（自治会）で男女共同参画を行っていきたいと思います。

(10) 雇用問題全体について

<特徴的な意見>

- ・職場で、男性が休暇休業を取る際、理解を示し、協力する。
- ・経営者にまだまだ、男性を優先的に採用したいという思いがある。現場からの採用推薦になって個としての評価し、女性の採用、昇進を支援する。
- ・企業では経営者及び役員が、役所ではそれぞれの職長が詳しい知識を身に付けて実践しなければ男女共同参画社会の実現は有りえません。※だれかがやると思って人任せでは到底実現しない夢物語です。

(11) 男女差に関係なく、個性や能力を生かした推進

<特徴的な意見>

- ・性別では差別しない、能力で判断する。
- ・仕事の内容や給料などを男女別に差をつけず、能力のある人間は同等の待遇にすべき。
- ・責任ある立場に「女性」を登用することが正しいと思いません。男女問わず責任ある立場にはその機関に応じた適切な能力のある方が就くべきだと考えます
- ・何でもこれは男性には無理とか女性には無理とか決めつけないこと

(12) その他

<特徴的な意見>

- ・このアンケートが差別。
- ・これだけの案があるのであれば取り組めるものから改善して行けばより良い改善が実現していくのではないのでしょうか
- ・具体的に何ができるのかはわかりませんが、ただ残りの自分の人生とその時々に見聞きしたことに興味を持ち自分にできることをやればと思います。
- ・待遇が変わらずに役職だけ上がっても責任だけが増えるだけ。さらに家庭内の役割も変わらなければ女性（母・妻）の負担が増えるだけとなりえる。一方、働きたい人と働きたくない人もいる。女性だからLGBTだからのいう前に「私らしく」が認められる社会。これも、働きたくない人を甘やかす事ではなく、そういう考えもあるくらいの認識が社会に浸透すると良いと考える。

○自由意見分類表

分類	回答数	構成比
1 性別によって差異がある、または役割が違うから疑問を感じる	12	4.8%
2 男女差を活かした推進	5	2.0%
3 男女共同参画は積極的に推進	10	4.0%
4 必要性は理解するが、推進は難しい	2	0.8%
5 教育や周知	33	13.1%
6 社会や個人の意識・環境（法整備含む）の変化が必要	64	25.4%
7 女性自身（意識など）の改善	6	2.4%
8 すでに男女平等か、それ以上である	4	1.6%
9 家庭内や地域活動の役割分担について	14	5.6%
10 雇用問題全体について	13	5.2%
11 男女差に関係なく、個性や能力を生かした推進	28	11.1%
12 その他	61	24.2%
合計	252	100.0%

※自由意見に記入があった回答者は245人でしたが、1人で複数の意見を書いている方がいるため、意見の総合計は人数を上回ります。

問32 その他、ご意見等がありましたらご記入ください。

自由意見に記入があった回答者は169人で全体の18.6%でした。
「男女平等・男女共同参画」に関する意見が一番多くなっています。

(1) 男女平等・男女共同参画

<特徴的な意見>

- ・男女共同参画への意識改革の点においては、30代、40代以上の大人達の考えを変えてもらう必要があるのではと思います。役職のある人、企業の風習が原因であきらめる人はたくさんいると思う。
(1-6) ※
- ・男女の平等に関して、日本は欧米より100年遅れていると思います。戦前から人々の考え方も変わっていない気がします。政治家もおじいさんばかりで女性の考え方を反映させるのは夢のまた夢。女性も頼るだけの意識からは脱却しないとイケませんね。その為には社会全体の意識改革が必要で、今の日本は全然寛容ではありません。(1-6)
- ・私の若い頃と風潮、考え方が全然違ってます。私の反省点ですがいっぱい資格にチャレンジをし資格を取り同等に意見考えを言えたらと思います。(1-9)
- ・男女平等と言いつつも女性のみが優遇されていることがここ最近多くなっているように感じる。
(1-9)

(2) 社会全体

<特徴的な意見>

- ・人は対等であり能力のある者は、老若男女関係なく活躍できるチャンスのある社会であってほしいと思います。ただ、数あわせのための無理な女性進出は必要なく資質のない人には反対です。どの様な立場の人でも対等に自分も含めて寛容で偏見のない社会を望みます。(2-1)

(3) 子育て、介護、教育

<特徴的な意見>

- ・シングル家庭、非課税世帯には色々サービスがあるが、ぎりぎり非課税世帯や税金をきちんと納税している世帯には何の支援もない。すごく不公平に感じる。(3-1)
- ・介護、看護、保育について施設やサービス、マンパワーがあればもっと男女共に働きやすかったり、家庭内でも協力して生きていけると思うので、横須賀市にはぜひ力を入れて頑張してほしいです。
(3-1)

(4) 仕事

<特徴的な意見>

- ・働き方改革が市としてどのように取り組んでいるのか疑問に思います。教育現場で働いていますが事務的作業ばかりが増え子どもに向く時間が減る一方です。教育本来の子どもに目を向けられるようにしてもらわないと困ります。アンケートの項目の中にもありましたが「仕事と生活の調和」と書かれていましたが市としてやっていただかないとどうにもなりません。(4-1)
- ・自分の娘たちが結婚、出産後も仕事をやっているのを見て、本当に大変だと感じている。託児所、保育園の整備は、女性の社会進出には必須。自分に介護が必要になった時には、子どもたちには頼らないようにしたい。(4-2)
- ・何を平等にするのが大事なのか本当に責任のある役職につかせるだけでいいのか疑問がある。(4-3)
- ・職場に共働きの夫婦が別々の職場で働いていますが、子どもが熱を出したり、体調不良になると、必ず奥さんは休まず、ご主人が休みます。その頻度がとても多く、職員の欠員対応がとても大変です。

しかも、休む本人は悪びれもせず、普通にしています。安易に休んでいるし、ご主人の職場の方が休みやすいという理由です。だから、一概に女性が不利とは言えないし、いいように育児制度を使う人もいるので、なかなか難しい問題です。一番独身者が苦勞しているように思います。税金もとられるし、休めないし。(4-3)

(5) 女性の人権と暴力(DV、セクハラなど)、性的マイノリティ

<特徴的な意見>

- ・個人の体感としてセクハラは減った気がします(5-1)
- ・痴漢は減っていない気がします。職場はコントロールが効いているけれども、個人はまだなのかなと思います。(5-2)
- ・結婚当初から家庭内DVがあります。長年悩まされていますが、改善する手立てがありません。今回無記名アンケートに書けると思うだけでも、「知ってもらえる」と気が楽になると思いましたが、DVについては掘り下げる内容ではなかったもので、少しがっかりしました。家庭内の実態を調査する統計もやって欲しいです。(5-2)
- ・性的マイノリティについて。意識、感覚、身体の違和感等があり、生きづらさを感じている人が居ることは知っている。どのような場面、環境で辛く感じているのか教えて欲しい。私達の認識が追いついていないから、気づけないことが多いと思う。(5-3)

(6) 行政の役割

<特徴的な意見>

- ・横須賀市が全国に先駆けて積極的に活動される事を祈っております。(6-2)

(7) その他

<特徴的な意見>

- ・アンケートの解答をもう少し選んで答えられるようにしてほしい。どのアンケートも答えが1つでは答えられないものばかりだったから。(7-1)
- ・そもそもこのアンケート自体が、男主体で作成されているような気がします。もっと踏み込んで、各々の悩みをかかえる当事者が「こうしたい」や「こうしてほしい」等の希望・要望を挙げ、それに賛同できるかできないか?問う方がよいと思う。いずれにしてもお役所仕事の内容です。市として、どうするのかを是非発表して下さい。(7-1)
- ・アンケートの設問が「誘導的な文章」に感じる。(7-1)
- ・これは大変に失礼な話だが時々、市役所に電話をするが職員の質の低下を感じる。公務員としてそれなりの自覚をもって勉強して欲しい。少し、質の低下を感じます。(7-2)
- ・コロナに対しても、もう少しワクチンや援助をしっかりとサポートしてほしいです。(7-3)
- ・コロナ禍に入り、家族が家に居ることが増え会話が増えました。早く収息して欲しいですが、我が家のあり方を振り返る機会を得たことも事実です。(7-3)
- ・市民の声を聞く場、フォーラムのような場を設けてその意見からどのような機関が必要か、また実現できるのか等を共に思案していくバーチャルのような行政方法があればもっと若い人たちが夢をもって参加していくのではと思います。(7-3)

※文尾の数字はp49の自由意見分類表の番号に対応しています。また、p47~48では、自由意見の中から、特徴的な意見を抜粋して記載しています。

○自由意見分類表

大分類	番号	中分類	回答数	構成比
1 男女平等・男女共同参画	1-1	性別によって差異がある、または役割が違うから疑問を感じる	0	0.0%
	1-2	男女差、個性を活かした推進が必要	2	10.5%
	1-3	男女共同参画は積極的に推進するべき	0	0.0%
	1-4	必要性は理解するが、推進は難しい	0	0.0%
	1-5	教育や周知が必要	2	10.5%
	1-6	社会の意識や環境（法整備含む）の変化が必要	4	21.1%
	1-7	女性自身（意識など）に問題がある。	0	0.0%
	1-8	すでに男女平等である	0	0.0%
	1-9	その他	11	57.9%
		小 計		19
2 社会全体	2-1	個人の能力を重視すべきという考え	1	100.0%
	2-2	思いやりや個人を尊重する心が大切である	0	0.0%
	2-3	社会は男性中心であるという考え	0	0.0%
	2-4	若い世代や将来への期待	0	0.0%
	2-5	その他	0	0.0%
		小 計		1
3 子育て、介護、教育	3-1	子育て、介護支援制度の充実	2	66.7%
	3-2	親の教育、しつけの問題	0	0.0%
	3-3	子育てに関する心構え	0	0.0%
	3-4	その他	1	33.3%
		小 計		3
4 仕事	4-1	雇用問題全体の改善	2	28.6%
	4-2	女性が働く労働環境の整備	1	14.3%
	4-3	働き方に関する考え	2	28.6%
	4-4	その他	2	28.6%
		小 計		7
5 女性の人権と暴力（DV、セクハラ等） 性的マイノリティ	5-1	セクハラについて	1	9.1%
	5-2	DV・ストーカー、性犯罪	2	18.2%
	5-3	性的マイノリティ（LGBT）	7	63.6%
	5-4	その他	1	9.1%
		小 計		11
6 行政の役割	6-1	男女共同参画に関する意識啓発の必要性	0	0.0%
	6-2	男女共同参画推進への期待（指導力の発揮など）	1	100.0%
	6-3	その他	0	0.0%
		小 計		1
7 その他	7-1	アンケートに関する意見	75	54.7%
	7-2	市役所全体への意見	4	2.9%
	7-3	その他	58	42.3%
		小 計		137
総合計（1人で複数の意見を書いている方がいるため、意見の総合計は人数を上回ります）			179	100.0%

調査用紙

令和3年度 横須賀市男女共同参画と多様な性についてのアンケート調査

調査票

・ご記入にあたって

- ①設問は、選択肢の中からお自分の考えに最も近いものを選ぶ「選択式」です。
あてはまる番号を選んで○で囲んでください。
- ②設問によっては、1つではなく複数の選択肢を選んでいただく場合があります。
- ③設問によって、回答していただく方が限られる場合があります。
各設問の注意書きをよくご確認の上、お答えください。

はじめに、あなたのことをお聞かせください。

①から⑥の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。

①性別※	1 男性 2 女性 3 その他 4 回答しない
②年齢（令和3年8月1日現在）	1 15歳～19歳 2. 20歳～29歳 3. 30歳～39歳 4. 40歳～49歳 5. 50歳～59歳 6. 60歳～69歳 7. 70歳～79歳
③働き方等	1 正社員・正職員 2 契約・派遣社員 3 パート・アルバイト 4 自営業 5 家事専業・無職 6 学生 7 その他
④結婚はしていますか	1 している（事実婚・パートナーシップを含む） 2 していない（離別・死別含む）
⑤中学生以下のお子さんはいますか	1 いる 2 いない
⑥同一世帯に介護が必要な家族（配偶者以外）はいますか	1 いる 2 いない

※①多様性の視点から、選択肢に「回答しない」「その他」を設けています。身体上・戸籍上の性別に関わらず、ご自身が認識されているもの（性自認）に○をお願いします。

1 男女共同参画（社会）に関する考え方

問1 次の(1)～(5)に掲げる言葉を知っていましたか。それぞれ1つ選んでください。

 <p>それぞれ1つ、選んで ○をつけてください</p>	言葉の意味も含めて知っていた。	聞いたことはあるが意味までは知らなかった	聞いたこともないし意味も知らなかった	
	(1) 男女共同参画	1	2	3
	(2) ジェンダー (gender)	1	2	3
	(3) ダイバーシティ (diversity)	1	2	3
	(4) 持続可能な開発目標 (SDGs)	1	2	3
	(5) ジェンダー・ギャップ指数	1	2	3

「用語解説」

用語	解説
男女共同参画社会	男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のこと。
ジェンダー (gender)	社会的・文化的に形成された性別のこと。生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）ではなく、社会通念や慣習の中で作り上げられた男性像・女性像のこと。
ダイバーシティ (diversity)	「多様性」を指す語。性別や国籍、年齢などを問わず、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会という。
SDGs (持続可能な開発目標)	2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17の目標・169のターゲットから構成されている。そのうち、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」が掲げられ、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現がうたわれている。
ジェンダー (gender)	社会的・文化的に形成された性別のこと。生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）ではなく、社会通念や慣習の中で作り上げられた男性像・女性像のこと。
ジェンダー・ギャップ指数 Gender Gap Index : GGI	世界経済フォーラムが、各国における男女格差を測る指数として発表しているもので、経済、政治、教育、健康の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示す。2020年の日本の総合スコアは0.652、順位は153か国中121位（前回は149か国中110位）であった。

問2 わが国では、以下の各場面で、男女は対等に活躍している、あるいは男女共同参画が進んでいると思いますか。①から⑩の項目ごとにあなたの考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

 それぞれ1つ、選んで○をつけてください	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
① 社会全般の風潮	1	2	3	4
② 法律・制度での扱い	1	2	3	4
③ 政府や企業での重要な意思決定の場	1	2	3	4
④ 学校生活などの教育の場	1	2	3	4
⑤ 就職の機会、職場での働き方や処遇	1	2	3	4
⑥ 家庭内での決定権や家事・育児の分担	1	2	3	4
⑦ 町内会・自治会の活動	1	2	3	4
⑧ PTAやボランティアなどの地域活動	1	2	3	4
⑨ テレビや新聞での扱われ方	1	2	3	4
⑩ 人生を決める選択肢や自由さ	1	2	3	4

問3 あなたの身のまわりで男女共同参画は進んでいると思いますか。どちらか1つ選んでください。

1 進んでいる	⇒問5へお進みください。
2 進んでいない	⇒問4へお進みください。


(問4は、問3で「2 進んでいない」と回答した方だけお答えください)

問4 男女共同参画がなかなか進まない理由として、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

1 人の役割を性別によって区別する考え方や慣習が根強いから 2 女性は意思決定の場への進出が遅れていることで発言力が弱いから 3 女性の役割は家庭内での家事、育児、介護などという考えが強いから 4 社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから 5 女性は職業能力を高める機会や意思決定の場に出るための経験が不足しているから 6 仕事と家庭の両立が図れる行政サービス、民間サービスが不足しているから 7 その他()

2 生活の中での男女共同参画について

問5 次の①から⑤のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

 それぞれ1つ、選んで○をつけてください	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	
	① 女性は子どもを産む／産まないを選ぶ権利を持っている。	1	2	3	4
	② 男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るべきである。	1	2	3	4
	③ 結婚したら夫の姓を名乗るべきである。	1	2	3	4
	④ 男でも女でも必ずしも結婚する必要はない。	1	2	3	4
	⑤ 離婚に対してマイナスなイメージがある。	1	2	3	4
	⑥ 同性のカップルが養親や里親になってもよい。	1	2	3	4

(問6は、現在、結婚(事実婚を含む)している方だけお答えください)

問6 家事などは誰が日常的に担っていますか。また、理想ではどうしたいと考えていますか。①から⑩の項目ごとに1つずつ選んでください。

⑤から⑩は、該当しない場合(お子さんや介護・看護する方がいない場合)は(1)(2)とも「該当しない」を回答してください。

	(1) 現在の担い手							(2) 理想の担い手						
	夫と妻で分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部サービスを利用	その他	該当しない	夫と妻で分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部サービスを利用	その他	該当しない
 (1)(2) それぞれ1つ、選んで○をつけてください														
①炊事	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
②洗濯	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
③掃除	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
④日常の買い物(食料品、日用品など)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
⑤子どもの身のまわりの世話	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
⑥子どものしつけ	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
⑦保育園・幼稚園、習い事などの送迎	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7




(1)(2)
それぞれ1つ、
選んで○をつけて
ください

	(1) 現在の担い手							(2) 理想の担い手						
	夫と妻で分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部サービスを利用	その他	該当しない	夫と妻で分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部サービスを利用	その他	該当しない
⑧子どもと遊ぶ、勉強などを教える	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
⑨高齢者や障害者、病人の介護・看護	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
⑩地域活動 (自治会、PTAなど)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7

(全員、お答えください)

問7 家庭での子どもの教育やしつけについて、あなたの考えに最も近いものを項目ごとに1つずつ選んでください。

 <p>それぞれ1つ、選んで ○をつけてください</p>	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
	①職業や結婚などの人生設計に対する助言は性別により区別するべきである	1	2	3
②男の子は男らしく強く、女の子は女らしく心優しく育てるべきである	1	2	3	4
③食事の支度や洗濯など日常的な家事は性別を問わず、身に付けさせるべきである	1	2	3	4
④家庭での子どものしつけや教育は母親の責任で行うべきである	1	2	3	4

問8 あなたが介護・看護を受けるとしたら、主に誰に世話をしてほしいですか。
1つ選んでください。

1 配偶者 (夫または妻)	2 実の娘	3 実の息子
4 息子の妻	5 娘の夫	6 その他の家族
7 在宅介護サービスを利用する 8 施設に入所する 9 その他 ()		

3 女性の活躍推進について

問9 女性の（1）現在の働き方（2）理想の働き方について、あなたの考えに最も近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

※女性はご自身について、男性は妻（事実婚を含む）の働き方についてお答えください。

※妻がいない男性は、（2）理想の働き方のみお答えください

（（1）は、女性 および 妻がいる男性のみ、お答えください）

（1）女性の現在の働き方

- 1 働いている（勤務条件等を変えない予定）※
- 2 働いている（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす予定）※
- 3 結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞めている
- 4 子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞めている
- 5 子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働いていない
- 6 職業を持っておらず、家事に専念している
- 7 その他（ ）

※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む

（全員、お答えください）

（2）女性の理想の働き方

- 1 ずっと働く（勤務条件等を変えない）※
- 2 ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）※
- 3 結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める
- 4 子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める
- 5 子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く
- 6 ずっと職業を持たず、家事に専念する
- 7 その他（ ）


※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む

問10 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。
あてはまる番号を3つまで選んでください。

- | | |
|----|-------------------------------------------|
| 1 | 賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間の格差解消 |
| 2 | 育児・介護休業制度等の充実 |
| 3 | フレックスタイム※・オンライン・テレワーク・在宅勤務など柔軟な勤務形態の導入 |
| 4 | 保育サービス（早朝・延長・休日・夜間・病後児・乳児保育等）の整備の充実 |
| 5 | 介護サービス・施設等の整備の充実 |
| 6 | 結婚・出産・育児・介護等のために退職した社員の再雇用制度の充実 |
| 7 | 女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力 |
| 8 | 女性自身の自覚、意欲・能力の向上 |
| 9 | 男性の意識の変化 |
| 10 | その他（ ） |
| 11 | 特にない |
| 12 | わからない |

※フレックスタイム：総労働時間だけを決め、出退勤の時刻は労働者の自由に任せる制度。

問11 政治、経済、地域社会において、重要な決定を行う話し合いの場に女性の割合を増やそうとする取り組みが進められています。次の①～④について、あなたの考えに最も近いもの項目ごとに1つ選んでください。

 それぞれ1つ、選んで ○をつけてください	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①国会議員や地方議会議員で、女性の割合がもっと高くなってほしい。	1	2	3	4
②各官庁や県、市などの行政組織における意思決定をする役職で、女性の割合がもっと高くなってほしい。	1	2	3	4
③民間企業における意思決定をする役職で、女性の割合がもっと高くなってほしい。	1	2	3	4
④町内会・自治会や学校のPTAにおける意思決定をする役職で、女性の割合がもっと高くなってほしい。	1	2	3	4

4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問12 性別を問わず仕事と生活を両立できるようにする公的な取り組みとして、あなたが最も重要だと思うものを1つ選んでください。

- 1 社会全体に対する意識づくり
- 2 職場における差別禁止のための制度の強化
- 3 両立支援のための制度の強化
- 4 企業、事業所に対する環境整備の働きかけ
- 5 出産や育児、介護等に関するサービスの充実
- 6 就職や復職、起業に対する支援
- 7 その他（ ）

問13 育児や介護を行うために、あなたが育児休業・看護休暇・介護休業・介護休暇を取ったことがありますか。①から④の項目ごとに1つずつ選んでください。また、最近10年以内に育児休業を取得したことがある方のみ、取得期間をご記入ください。

	ある	ない
①育児休業（原則として、1歳未満の子を養育するための休業）	1	2
②看護休暇（小学校就学前の子の看護のための休暇）	1	2
③介護休業（要介護状態にある家族を介護するための休業）	1	2
④介護休暇（要介護状態にある家族を短期に介護するための休暇）	1	2

（最近10年以内に育児休業を取得したことがある方のみお答えください）

最近10年以内に、育児休業を取得した期間をご記入ください。複数回取得された場合は、直近の取得期間についてご記入ください。

育児休業を取得した期間＝ _____ 日間・週間・カ月間・年間
 （期間の単位のどれかに○を付けてください）

5 男性の育児や介護の参画について

問14 男性が育児休業や介護休業などを取ることにについて、あなたの考えに最も近いものを、①～④の項目ごとに1つずつ選んでください。

	積極的に取るべき	どちらかといえば、取る方がよい	どちらかといえば、取らない方がよい	取るべきではない
①育児休業	1	2	3	4
②看護休暇	1	2	3	4
③介護休業	1	2	3	4
④介護休暇	1	2	3	4

問 15 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。
その理由について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

- 1 職場の理解を得られないから
- 2 職場の同僚に申し訳ないと思うから
- 3 昇進や昇給に影響する恐れがあるから
- 4 休業後の職場復帰に不安があるから
- 5 仕事の量が多いから
- 6 仕事の責任が重いから
- 7 休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから
- 8 女性の方が育児や介護に向いているから
- 9 その他 ()

問 16 今後、性別を問わず家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に関わって
いくために、最も必要だと思うものを1つ選んでください。

- 1 職場において家庭生活や地域活動に関わりしやすい雰囲気をつくる
- 2 労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする
- 3 男性自身の家庭生活や地域活動に関わることにに対する抵抗感をなくす
- 4 社会の中で、男性が家庭生活や地域活動に関わることにに対する評価を高める
- 5 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
- 6 男性は積極的に関わる必要はない
- 7 早い時期（中学、高校）での教育
- 8 その他 ()

6 性別等に基づく人権侵害（DV※、セハラなど）について

問 17 「人権が侵害されている」とあなたが感じるのはどのような場合ですか。
あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 買春・売春・援助交際
- 2 性風俗店
- 3 ストーカー行為
- 4 夫や恋人からの暴力
- 5 レイプ
- 6 痴漢
- 7 雑誌や広告のヌード写真
- 8 職場や学校、地域でのセクハラ
- 9 ミス・コンテスト
- 10 職場での男性との待遇の差
- 11 家事負担が女性にかたよっていること
- 12 「婦人」「未亡人」「女流」など女性にだけ用いられる言葉
- 13 スポーツ競技の性的画像
- 14 その他 ()

※DV（ドメスティック・バイオレンス）

配偶者や恋人などの親密な関係にある、またはあつた者から振るわれる暴力のことです。「配偶者」には、婚姻の届けを出していない事実婚も含まれます。

問 18 最近5年以内に、職場や学校、地域などで、①から⑧の行為をされてあなた自身が不快な思いをした、または家族や友人で不快な思いをした人を知っていますか。それぞれ1つずつ選んでください

 それぞれ1つずつ、 選んで ○をつけてください	自分自身として		自分以外のこととして			
	あ	る	な	い	知っている	知らない
①不必要に体を触られた	1		2		3	4
②交際や性的関係を迫られた	1		2		3	4
③交際や性的関係を拒否した人から不当な扱いや嫌がらせをされた	1		2		3	4
④宴会でお酌やデュエットを強要された	1		2		3	4
⑤性的なうわさを流された	1		2		3	4
⑥年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われた	1		2		3	4
⑦異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	1		2		3	4
⑧性的な冗談や会話につきあわされた	1		2		3	4

問 19 セクハラをなくすためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。あなたが最も重要だと思うものを1つ選んでください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 公的機関の相談や指導の強化 | 2 民間ボランティア団体等のチェックや相談 |
| 3 事業所内でのチェックや相談 | 4 セクハラを禁止する法律や条例などの強化 |
| 5 セクハラは人権侵害だという社会意識づくり | 6 その他 () |

問 20 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力(DV)は、一般社会における暴力と同様の加害行為であると思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

- | |
|----------------|
| 1 そう思う |
| 2 どちらかというと思う |
| 3 どちらかというと思わない |
| 4 そう思わない |

問 21 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力(DV)について、相談できる機関としてあなたが知っているものをすべて選んでください。

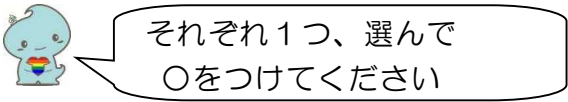
- | | | |
|------------------|----------------|-----------------|
| 1 警察 | 2 市役所 | 3 配偶者暴力相談支援センター |
| 4 かながわ男女共同参画センター | 5 民間支援団体 | |
| 6 法務局(人権擁護委員) | 7 相談できる機関を知らない | |

問 22 配偶者や恋人など親しい間柄における暴力（DV）に対する対策や支援として特に重要だと思う取り組みはなんだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

1	家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発
2	いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備
3	緊急時の相談体制の充実
4	住居や就労斡旋、経済的援助など、生活支援の充実
5	カウンセリングや日常的な相談など、精神的援助の充実
6	関係機関やスタッフの充実
7	関係機関の紹介や暴力への対応方法など、さまざまな情報の提供
8	離婚調停への支援など、法的なサポートの充実
9	加害者に対する厳正な対処
10	カウンセリングなど、加害者の更正に関する対策の充実
11	裁判所、病院、住居探し等への同行支援
12	その他（)
13	わからない

7 性的マイノリティについて

問23 次の(1)～(4)に掲げる言葉を知っていますか。それぞれ1つ選んでください。

	言葉の意味も含めて知っていた	聞いたことはあるが意味までは知らなかった	聞いたこともないし意味も知らなかった	
	(1) 性的マイノリティ	1	2	3
	(2) L G B T	1	2	3
	(3) S O G I	1	2	3
	(4) パートナーシップ制度 (およびそれらに類するもの)	1	2	3

用語解説

用語	解説	
性的マイノリティ (sexual minority)	同性が好き人や、自分の性別に違和感を覚える人、または性同一性障害などの人々のこと。「異性を愛するのが普通だ」とか、「心と体の性別が異なることはない、性別は男と女だけである」としている人からみて少数派という意味。	
L G B T (L G B T Q)	頭文字	意味
	L (レズビアン)	女性の同性愛者
	G (ゲイ)	男性の同性愛者
	B (バイセクシュアル)	両性愛者
	T (トランスジェンダー)	生まれたときの法的・社会的性別とは違う性別で生きる人、生きたいと望む人
Q (クエスチョニング)	性のあり方に迷う人	

用語	解説
SOGI	性的指向 (Sexual Orientation) と性自認 (Gender Identity) のそれぞれの英単語の頭文字をとった「人の属性を表す略称」。少数派と多数派というとらえ方ではなく、異性愛の人なども含め、すべての人が持っている属性のこと。
パートナーシップ制度	国が法律で定める「結婚」とは異なり、相続などの法律効果は発生しないものの同性カップルなどの関係性を「婚姻相当に認める」制度の総称で、地方自治体が条例等で実施している。 横須賀市では、2019年4月から、戸籍上の性別にとらわれず、お互いが大切なパートナーと思っている方々の誰もが、自由な意思によるパートナーシップ宣誓を行い、宣誓したことを横須賀市が公に証明し、宣誓証明書を発行する〈パートナーシップ宣誓証明制度〉を実施している。

問24 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。また、友人・知人等から、同様の相談を受けたことがありますか。
それぞれ1つ選んでください。

	悩んだことがある	悩んだことがない
①自分自身	1	2
	相談を受けたことがある	相談を受けたことがない
②自分以外	1	2

用語解説

用語	解説
性的指向	人の恋愛・性愛がどういう対象に向かうのかを示す概念。具体的には、恋愛・性愛の対象が異性に向かう異性愛、同性に向かう同性愛、男女両方に向かう両性愛、いずれも対象としない無性愛などのさまざまな形がある。
性自認	自分の性をどのように認識しているのか、どのような性のアイデンティティ (性同一性) を自分の感覚として持っているかを示す概念。「こころの性」と呼ばれることもある。

問25 現在、性的マイノリティ (またはLGBT) の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いませんか。あなたの考えに最も近いものを 1つ 選んでください。

- | |
|------------------|
| 1 そう思う |
| 2 どちらかと言えばそう思う |
| 3 どちらかと言えばそう思わない |
| 4 そう思わない |

問26 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々も生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。
あてはまるものを2つまで選んでください。

- 1 行政が市民等へ周知啓発を行う
- 2 相談窓口等を充実させ、その存在を周知する
- 3 生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う
- 4 法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する
- 5 当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う
- 6 働きやすい職場環境づくりの取り組みをする
- 7 わからない
- 8 その他 ()

問27 あなたの身の回りに性的マイノリティの方はいますか？（複数回答可）

- 1 家族や親族にいる
- 2 友人や知人にいる
- 3 学校や職場にいる
- 4 街などで見かけたことがある
- 5 周囲にはいない（知らない）
- 6 その他 ()

問28 身の回りに性的マイノリティの方がいたらどう思うかあなたの考えに近いものを1つ選んでください。

- 1 もし困っていたらサポートしたいと思う
- 2 特になんとも思わない
- 3 なんとなく嫌だ
- 4 嫌だ

8 男女共同参画推進のために必要な取組みについて

問 29 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを①から④の項目ごとに選んでください。

①個人で心掛けること（1つ選んでください）

- 1 「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する
- 2 男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める
- 3 性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける
- 4 男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ
- 5 その他（)

②家庭での取組み（1つ選んでください）

- 1 夫婦の関係が対等であるように努力する
- 2 家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する
- 3 家事や育児の重要性を正當に評価する
- 4 「嫁・姑」「後継ぎ」「墓」「氏」など、家系を中心にした家族観や慣習を改める
- 5 子育てにおいて、性別によって教育やしつけの方針、態度を区別しない
- 6 その他（)

③社会全体での取組み（1つ選んでください）

- 1 性別を理由にした差別的待遇を禁止・撤廃する法律を強化する
- 2 性別に関わらず自分の人生を決められるよう、偏見や先入観を排除する
- 3 テレビや新聞、雑誌などで性別による固定的な役割分担に基づいた男女の扱いをしない
- 4 性的な興味の対象として、人を扱わない
- 5 社会活動や政治に、女性がより参画できるような仕組みを作る
- 6 社会活動や政治に女性を積極的に登用し、発言力を高める
- 7 その他（)

④横須賀市における取り組み（2つまで選んでください）

- 1 学校教育における男女共同参画教育を進める
- 2 男女共同参画の意識を高めるための情報提供（冊子など）や学習の場（講座など）を充実する
- 3 事業所（会社など）に対して職場における男女格差の是正を働きかける
- 4 事業所（会社など）に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける
- 5 多様な保育サービスを充実する
- 6 介護施設、介護サービスを充実する
- 7 女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する
- 8 ひとり親世帯の生活を安定させるための支援を充実する
- 9 男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する
- 10 夫婦がともに関わるができる家事・育児や介護に関する学習の場（講座など）を充実する
- 11 市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する
- 12 市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める
- 13 市役所が率先して模範となることで、男女共同参画の職場づくりを働きかける
- 14 女性の能力・技術を高め、チャレンジをうながすための支援を充実する
- 15 性別に関する人権侵害をチェックし、是正するための制度を充実する
- 16 男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する
- 17 その他（）

問 30 男女共同参画社会を実現していくために、あなたはどんなことができると
思いますか。



自由記入解答欄です

9 新型コロナウイルス禍における影響について

問 31 コロナ禍前と現在とを比較し、新型コロナウイルスの影響によりあなたやあなたのまわりでどのような変化が起きましたか。「好ましい変化があったもの」「好ましくない変化があったもの」「変化がなかったもの」をそれぞれ次の選択肢から 1つ 選び、また、最も変化があったものの番号をそれぞれお書きください。


	好ましい変化があった。	好ましくない変化があった。	変化はなかった。
①自分や家族の働き方について（雇用形態、就業時間、在宅勤務、仕事内容の変化など）	1	2	3
②自分の生活や行動面について（家事、育児、学習、趣味など）	1	2	3
③配偶者・パートナーとの関係について	1	2	3
④家族（配偶者・パートナーを除く）との関係について	1	2	3
⑤友人・知人との交友関係について	1	2	3
⑥職場環境や学校活動について	1	2	3
⑦自分自身や世帯（家族）の収入、経済面について	1	2	3
⑧自分自身や家族の健康面について	1	2	3

最も好ましい変化があったもの・好ましくない変化があったものの、上の番号①～⑧を1つずつ選んでお書きください。

最も好ましい変化があったもの	具体的には→ _____ (番号を記入)
最も好ましくない変化があったもの	具体的には→ _____ (番号を記入)

10 アンケート全般について

問 32 その他、ご意見等がありましたらご記入ください。



自由記入解答欄です

質問は以上です。ご協力ありがとうございました

※ご記入がおわりましたら、同封の返信用封筒にて 8月31日（火） までに投函してください。